

取扱説明書及び部品表

Takakita

細断型ロールベアラ

MR-820



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。
本取扱説明書はお手持ちのスマートフォンや
タブレットから右記 QR コードを読み込んで
アクセスすることができます。



株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、細断型ロールペーラの取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みの上、正しくお取扱いただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または弊社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として知っておくとお得な製品の性能や、製品自体の損傷防止に関する留意事項を書いてあります。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

警 告 サ イ ン

 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

目 次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	10
各部の名称とはたらき	11
トラクタへの装着	16
1. 装着のしかた	16
2. ユニバーサルジョイントの取付け	16
3. コントロールボックスの接続	17
運転に必要な装着の取扱い	19
1. 油圧装置の取扱い	19
2. タイトチェン注油装置の取扱い	19
3. タイトチェン注油絞り弁の取扱い	20
4. シェアボルトの交換	21
5. パトライト位置	21
6. コントロールボックスの取扱い	22
7. 使用できるネット	27
8. ネット装置の取扱い	27
9. ネットの通し方	28
10. ブレーキの調整方法	29
11. ネット装置の作業前点検	29
12. 使用にこれだけは守りましょう	30
作 業 方 法	31
1. 作業前準備の流れ	31
2. 作業の流れ	32
3. 作業後の流れ	33
4. 定置作業手順	34
5. 伴走作業手順	34
6. ワンマン作業手順	34
作業前の点検について	35
点検一覧表	35
作業後の手入れと格納について	36
1. 機体洗浄のしかた	36
2. 各部の掃除のしかた	37
3. ホッパー内の掃除	38
4. 床コンベア前部の掃除	39
5. コンベア下部の掃除	39
6. リヤチャンバー内の掃除	39
7. 油圧モータ周辺の掃除	40
8. タイトチェンの注油	40
9. 各部のチェンへの注油	42
10. 各部のグリスアップのしかた	43
11. コンベアテンション スライド部へのグリスアップのしかた	45
12. タイトチェンのテンション スライド部へのグリスアップのしかた	45
13. チャンバー開閉支点への グリスアップのしかた	45
14. 格納のしかた	45
15. 運転再開のしかた	45
16. センサの調整	46
17. 電球の交換	49
18. リモコンの設定方法	49
19. タイトチェンを交換後	49

各部の点検・整備	50
1. 定期点検一覧表	50
2. 規定値一覧表	51
3. オイル・グリス一覧表	51
4. 給油一覧表	51
5. コンベアチェンの調節	52
6. タイヤの空気圧調節及び磨耗・損傷	52
7. オイルの点検・補給・交換のしかた	
①油圧パッケージ	53
②直交ミッション	53
8. ヒューズの点検・交換のしかた	53
9. ロールベアラ駆動ベルトの調節のしかた	54
10. 各部のチェン調整	
①油圧パッケージ駆動チェン	55
②タイトチェン駆動チェン	56
③コンベア駆動チェン	57
④アジテータ・床コンベア駆動チェン	57
11. コンベアベルトの調節のしかた	58
不調診断	59
コントロールボックスのエラー表示	60
主要消耗品	61
付 表	63
1. 主要諸元	63
2. 配線図	64

⚠ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある⚠ 表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解した上で使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

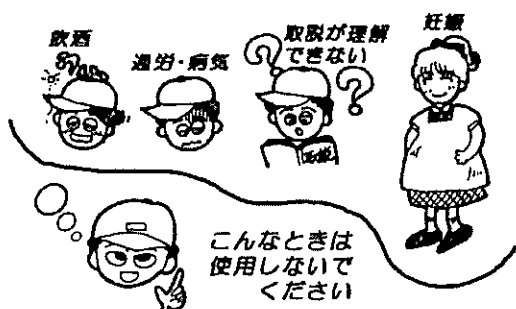
機械を他人に貸すとき、または他人に運転をさせるときは、運転の仕方を教え、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

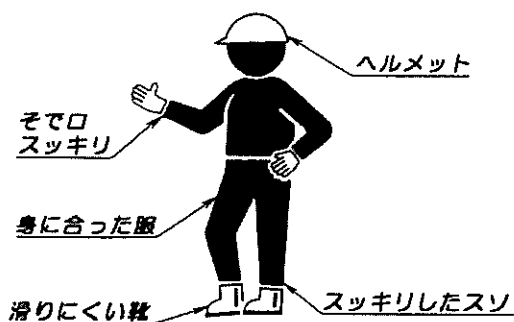
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。



(2) 使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



(3) 適応トラクタ以外への装着厳禁

下記の装着条件に合致するトラクタ以外には装着しないでください。

● 適応トラクタ馬力 (kW [PS])

定置作業・伴走作業	22.1 [30] 以上
ワンマン作業 ※1	44.2 [60] 以上
※2	55.8 [80] 以上

※1 タカキタ 1 条刈りコーンハーベスタで作業の場合

※2 タカキタ 2 条刈りコーンハーベスタで作業の場合

- ロワーリンク規格：カテゴリ I・II
- PTO 回転速度：540 min⁻¹(rpm)
- 電源用バッテリー：DC12V

(4) 装着時の前後のバランス確認

トラクタに装着（連結）した作業機の最大積載状態において、トラクタ前輪にかかる荷重は、総重量の20%以上前輪に作用していることが必要です。もし、不足するときはトラクタ指定のフロントウエイトを取付けて、20%以上を確保するか、できなければ装着（連結）しないでください。

(5) バランスウエイトの取付け

トラクタのバランスウエイトは指定された部分に指定されたウエイト以外は取付けしないでください。



安全に作業するために

(6) 機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取付けないでください。

また、改造をしないでください。

(7) 使用目的以外への使用禁止

本機は、細断コーンをロール成形型する作業を目的として作られた機械です。他の目的には使用しないでください。

(8) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができるようにしてください。



(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所で、P T Oを切り、トラクタのエンジンを停止させ、駐車ブレーキまたは車止めをしてから行ってください。

(4) ナイフに注意すること

ナイフ類は、絶対に素手で触れないでください。必ず手袋などの保護具を着用してください。



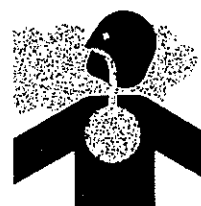
(5) 機械を常にきれいに

火災予防と性能維持のため、回転部への草などの巻付きやたまりを取除き、機械を常にきれいにしてください。

(6) 排気ガスには十分注意

屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。

エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。

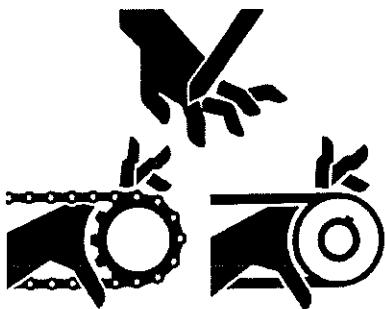




安全に作業するために

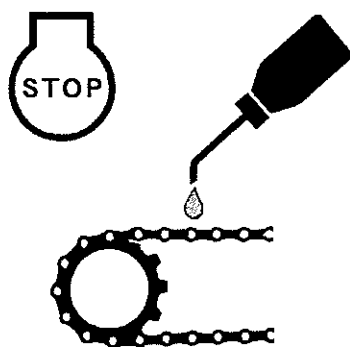
(7) カバー類を必ず取付ける

カバー類などの防護装置を取外すときは、必ずP T Oを切り、エンジンを止めてから行ってください。
また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと、傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(8) 注油・給油するときは

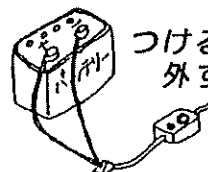
チェーンへの注油は、必ずP T Oを切り、エンジンを止めてから行ってください。



また、油圧パッケージへの給油は、高温のときには行わないでください。

(9) コントロールボックスの電源脱・着は トラクタのバッテリーより電源を取り 出します。

その取付け方法は、(+) 側から行ってください。
外す時は、(-) 側から行ってください。
逆にすると火花が飛び危険です。

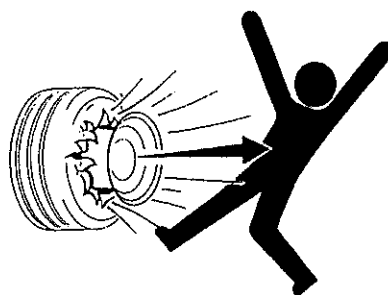


つける時は(+) 側から
外す時は(-) 側から



(10) タイヤの点検・修理をするときは

- ①タイヤの空気圧は、規定の空気圧を必ず守ってください。
- ②空気の入れ過ぎはタイヤ破損の恐れがあり、死傷事故を引き起こす原因になります。
- ③タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は使用しないでください。
タイヤ破損の恐れがあります。
- ④タイヤ・チューブ・ホイールなどに関する交換・修理などは十分な整備施設をもち、特別教育を受けた人がいるタイヤショップ等の専門店で依頼してください。





安全に作業するために

(1 1) 長期格納するとき

機械を清掃し、回転部及びチェーンには十分注油して、屋内の平坦な場所に保管してください。

コントロールボックスはトラクタより取外して屋内の乾燥した場所に保管してください。

3. 作業・移動をするときは

(1) 人や動物を近づけない

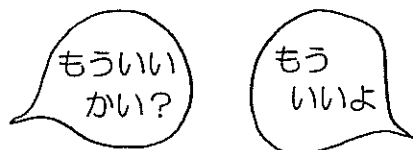
特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

(2) P T O回転中は危険です

回転部には近寄らない、触らないを守ってください。

(3) 二人以上で作業するとき

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。



(4) エンジンを始動するとき

P T Oを切り、変速レバーを中立にし周囲の人に合図をして安全を確かめてからエンジンを始動してください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(5) 急な発進・停止・旋回・スピードの出しすぎ禁止

スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起伏の多いほ場や傾斜地は、危険です。作業スピードは極力落として作業を行ってください。

(6) 回転中のタイトバーには触れない

回転しているタイトバーに、手や足で絶対に触れないでください。巻き込まれ重傷を負うことがあります。



安全に作業するために

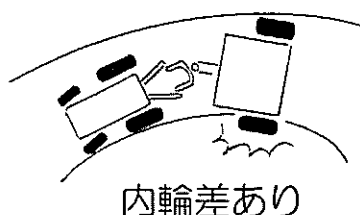
(7) 傾斜地で作業するときは

次のことを必ず守ってください。

- ① 斜面の等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。
斜面の作業は、必ず等高線に直角方向に走行してください。
- ② 傾斜地で旋回するときは、速度を落とし、急ハンドルを切らないでください。
守らないと、転倒する危険があります。
- ③ 傾斜地でのバール放出は、谷側にバールが転動して危険です。必ず平坦地まで移動して、安全な場所に放出してください。

(8) 移動及び作業の旋回のときは

トラクタに本機をけん引して旋回するときは、内輪差が生じるので十分注意してください。急旋回は危険ですので行わないでください。



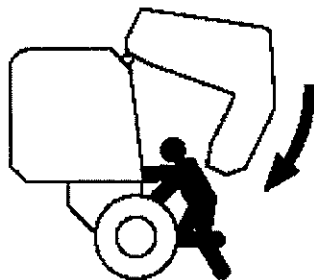
(9) シェアボルトの交換のときは

P T O を切り、エンジンを必ず止め、回転部が完全に停止してから行ってください。



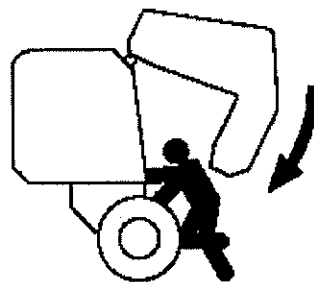
(10) バールを放出するときは

バールの放出は、後方に人がいないことや、障害物のないことを十分確認し、放出距離を考慮して放出してください。



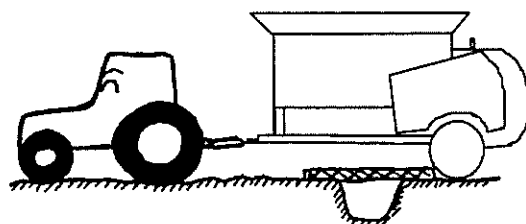
(11) チャンバーを開けて作業するときは

シリンダーストッパーを必ずセットしてください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(12) 溝や畦を横断したり軟弱な所を通るときは

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。

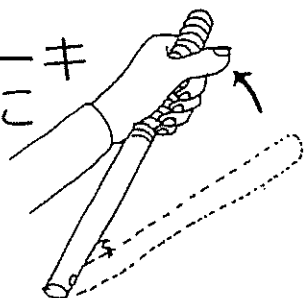




安全に作業するために

- (13) 作業途中で運転席より離れるときは平坦な場所に停止し、P T Oを切りエンジンを止め、駐車ブレーキを掛け、本作業機側に車止めをしてください。

駐車ブレーキ
も忘れずに



(14) 高圧油に注意してください

- ①圧力がかかり噴出した油は、皮膚に浸透する程の力があり、傷害の原因になります。
- ②高圧油による傷害を防止するために配管・ホースなどの取り外し前には必ず残圧を抜いてください。
- ③圧力をかける前に配管・ホースなどは正しく確実に締め付けてください。
- ④非常に小さな穴からの油漏れは、ほとんど目に見えないことがあります。手で油漏れを探すことは止めてください。必ず、保護メガネをかけ、紙などを使用して調べてください。



- ⑤万一、油が皮膚に浸透したときは、強度のアレルギーを起こす恐れがあるので、すぐ医師の診療を受けてください。



4. 道路走行・輸送するときは

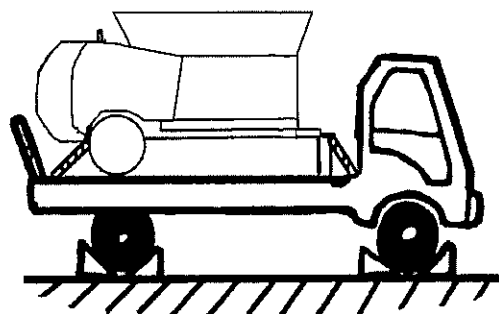
(1) トラクタに装着しての公道走行禁止

トラクタに本機を装着して公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。トラクタに装着しての走行はしないでください。

(2) トラックなどへの積込み・積降ろしは

平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを止め、サイドブレーキをかけ、車止めをしてください。

積込んだ機械は車止めをし、強度が十分にあるロープで確実に固定してください。

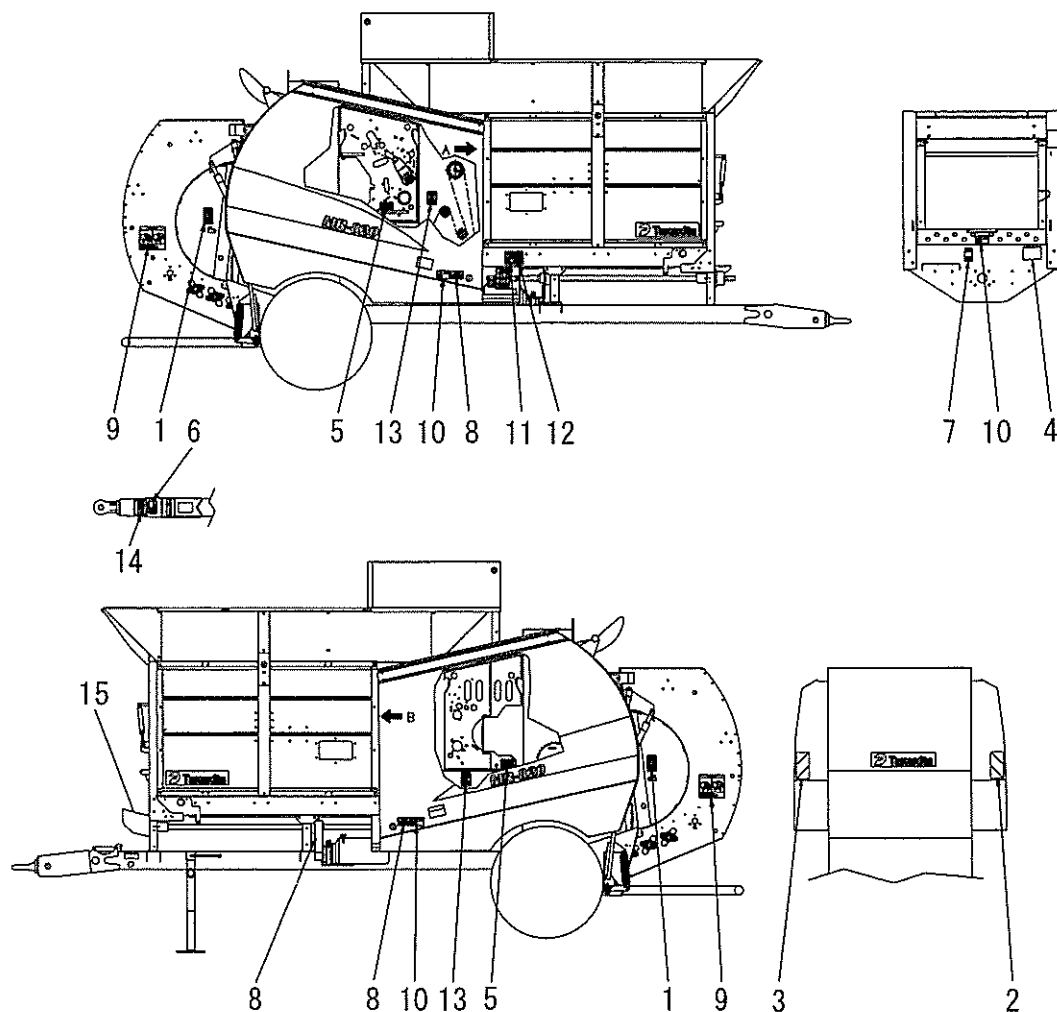




安全に作業するために

以上、機械の取扱で注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも本文の中で  印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

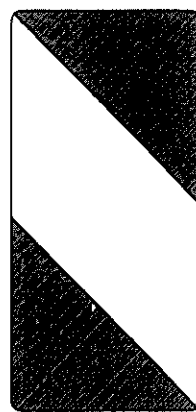
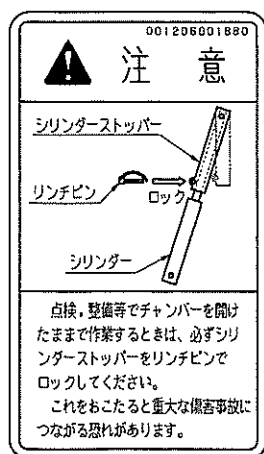
5. 警告ラベルの貼付け位置



①部品コード 001206001880

②部品コード 001306000600

③部品コード 001306000610





安全に作業するために

④部品コード 001204500042

 注意	
001204500042 1. 石突いを誤ると事故や故障の原因となりますので、必ず取説説明書を熟読するまでも読みください。 2. 全体的ラベルが所定部分に貼付けられているようにしてください。 3. エンジン始動時に機体の周りに人がいないことを確認してください。 4. 作業中は人や動物を近づけないでください。 5. 運転席を離れるときは、必ず	エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。 6. 斜面での駐車時は動止めをしてください。 7. 点検・調整等はエンジンを止めて実施してください。 8. 手、足及び衣類を運動部分に近づけないようにしてください。 9. 公道走行はできません。トラック等で運送してください。

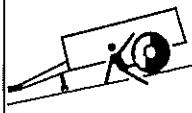
⑤部品コード 001206000561

 注意	
001206000561 	・鋭利な刃物のため、点検・取換え時は十分注意してください。 ・注意を怠ると傷害発生の可能性があります。

⑥部品コード 001206000610

 警告	
001206000610 	巻き込まれてケガをする恐れがあるので回転中は近づかないでください。カバーは、常に装着してください。

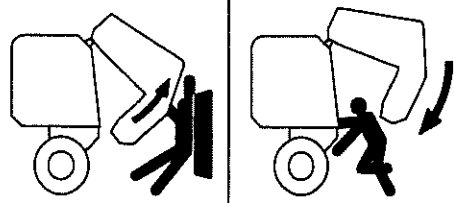
⑦部品コード 001206000750

 警告	
001206000750 	
事故発生の恐れがありますので、駐車・停車時には必ず車輪止めをしてください。	

⑧部品コード 001206000800

 注意	
001206000800 	・カバーを取り外す時は必ずエンジンを止めてからにしてください。 ・はずしたまま運転するとケガをするおそれがあります。

⑨部品コード 001206001350

 危険	
001206001350 	
・チャンパーに接近するな。 ・人や動物がまわりにいないことを確認して開閉を。 ・開いたチャンパーの下で作業する前にシリンダーロックを確実に。 ・点検、調整時はP.T.Oを切り、エンジンを停止させてください。 ・注意をおこたると重大な傷害発生のおそれがあります。	

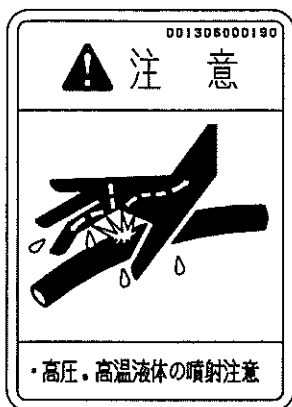
⑩部品コード 001206001690

 注意	
001206001690 	手をはさむ恐れがありますのでカバーのエッジ部を持ってカバーを開めないでください



安全に作業するために

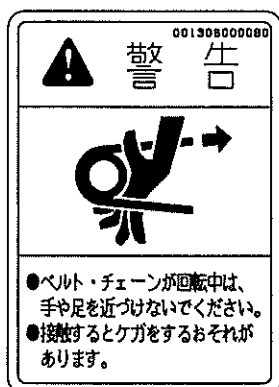
⑪部品コード 001306000190



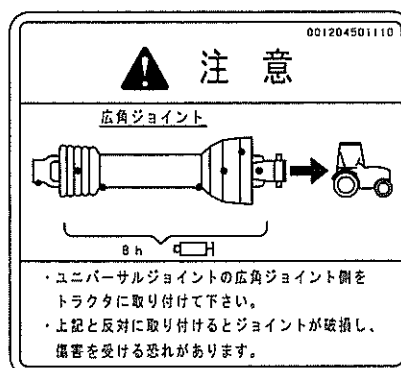
⑫部品コード 001206001080



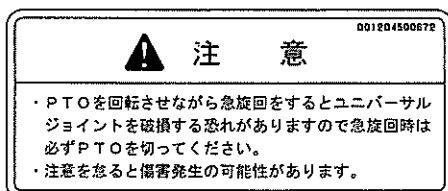
⑬部品コード 00120600080



⑭部品コード 001204501110



⑮部品コード 001204500672



警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、お買い上げの販売店又は当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。
(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。
気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

本製品の使用目的について

本製品は、細断コーンをロール成形する作業にご使用ください。

使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。

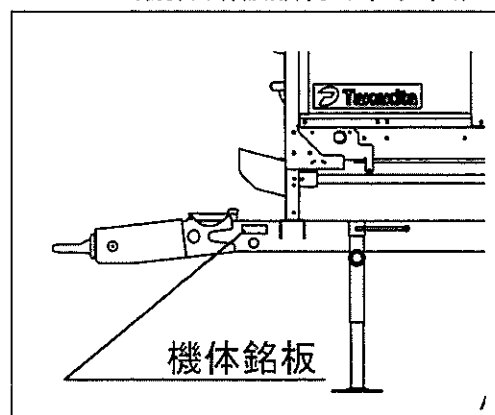
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

(機体銘板貼付け位置図)

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って
点検・処置しても、なお不具合があるとき

は、お買い上げいただいた販売店、農協、
または、お近くの当社営業所までご連絡く
ださい。



【連絡していただきたい内容】

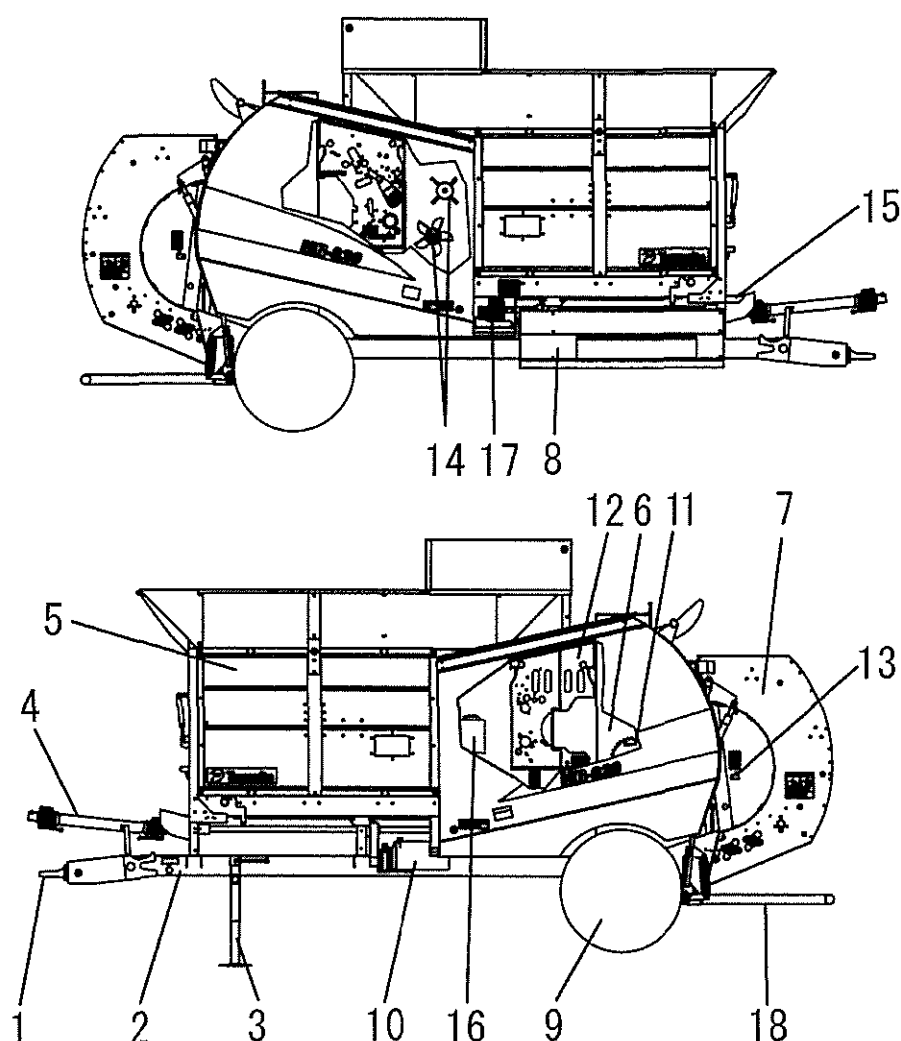
- 品名と型式
- 機体 No. (SER-No.)
- ご使用状況は？ (どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？ (約〇〇アール、または約〇〇時間使用后)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

品 名	細断型ロールベアラ
型 式	MR-820
機 体 No. (SER-No.)	
購入年月日	年 月 日
販売店名	TEL : ()

各部の名称とはたらき

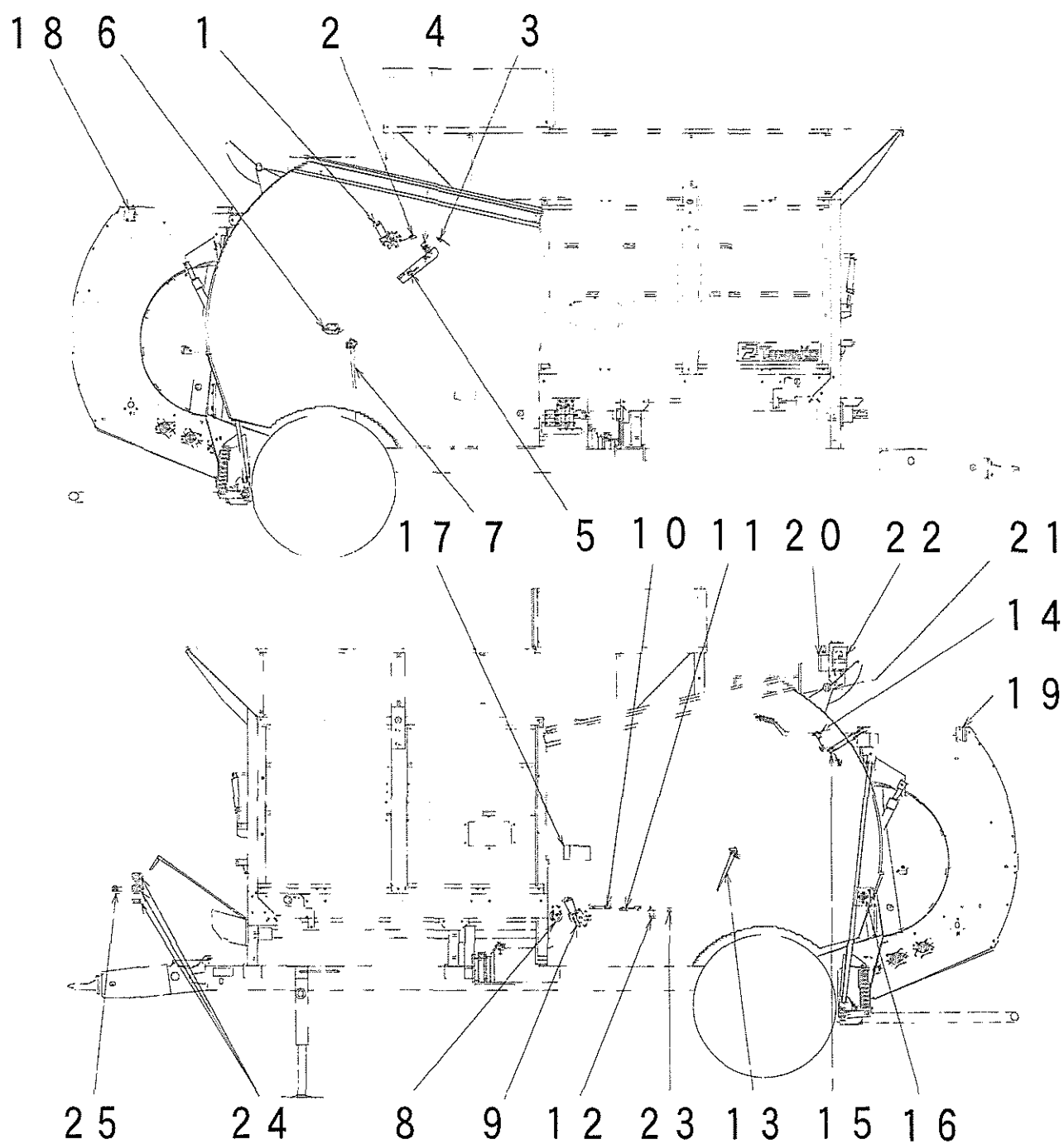
本体



番号	名 称	は た ら き
1	ヒッチ	トラクタと連結します
2	けん引フレーム	全体の構造部を保持します
3	スタンド	ヒッチを上下する。トラクタの脱着時及び保管時に使用します
4	ユニバーサルジョイント	トラクタからの動力を伝えます
5	ホッパー	収穫物を投入します
6	フロントチャンバー	成形室の前部分
7	リアチャンバー	成形室の後部分
8	ネットボックス	ネットを収納します
9	タイヤ	低圧広幅タイヤでほ場を傷めません
10	油圧パッケージ	トラクタの動力より油圧を発生させます
11	シェアホイール	ベアラに過負荷がかかったときにシェアボルトが切断されます
12	ネット装置	ネットでロールベアラを梱包します
13	シリンダーストッパー	リアチャンバーを上げて点検するときシリンダーストッパーで固定します
14	アジテータ	ネットホサキセンサによる制御で収穫物を送り込みます
15	車輪止め	駐車時に車輪止めをしてください
16	注油タンク	タイトチェーンへ給油するオイルを入れます(エンジンオイル5W-30又は10W-30を4ℓ)
17	電磁バルブ	油圧を制御します
18	キッカー	ロールベアラの放出を補助します

各部の名称とはたらき

センサー

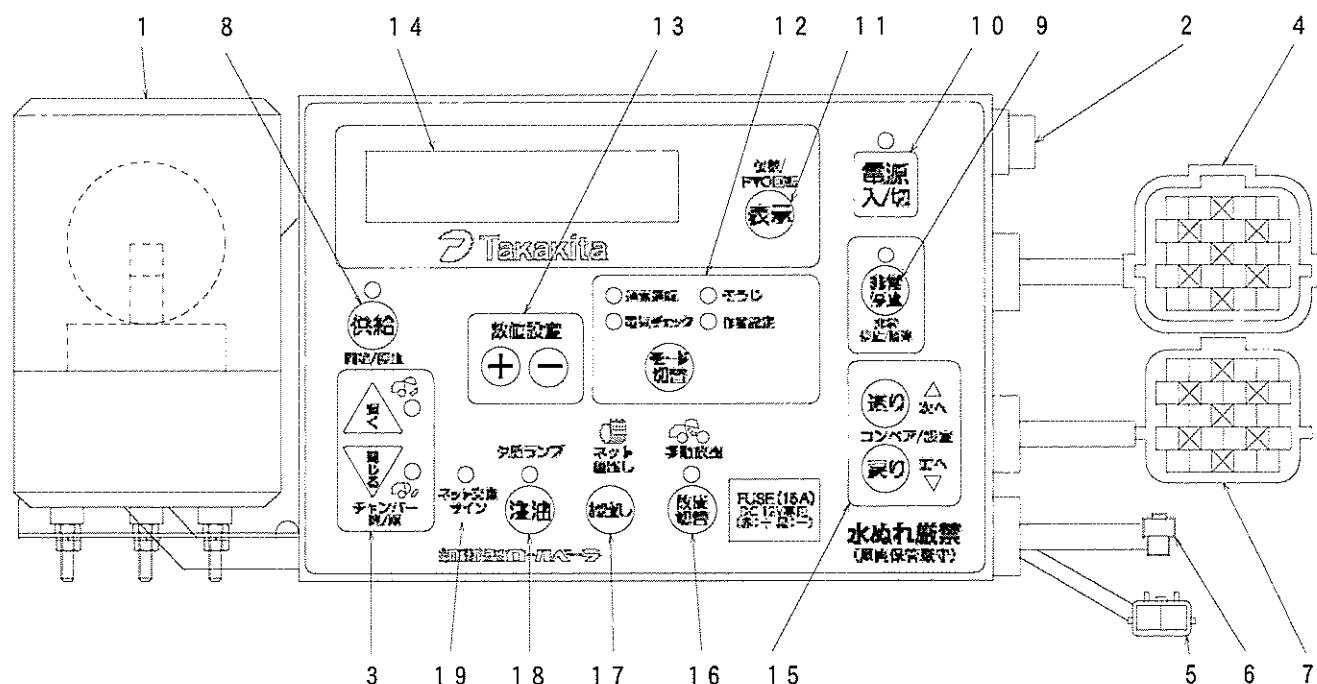


番号	名 称	は た ら き
1	ネットモータ	・カムを回転させ、ネットを繰出します。
2	カム1センサ	・カムの位置を制御します。
3	カム2センサ	
4	ネット残量センサ	・ネットが残り少ないことを検出します。
5	ネットカウントセンサ	・ネット巻数をカウントします。
6	PTO センサ	・PTO 回転数を検出します。 ・シャボルトが折れたことを検出し、供給を止めます。

各部の名称とはたらき

7	ホサキ右センサ	・ 供給中、材料が流れていることを、検出します。 ・ ネットの片巻きを検出します。
8	ホーン	・ 満了感知、ネット巻き完了、ロールの排出を知らせます。
9	クラッチモータ	・ ベーラ部に動力をつなぎます。
10	クラッチ入センサ	・ クラッチが入ったことを検出します。
11	クラッチ切センサ	・ クラッチが切れたことを検出します。
12	注油リレー	・ 注油ポンプを駆動します。
13	ホサキ左センサ	・ 供給中、材料が多いことを検出し、コンベアを止めます。 ・ ネットの片巻きを検出します。
14	満了感知ポテンシオメータ	・ ロールサイズをタイトチェンの張りから検出します。
15	チャンバポテンシオメータ	・ チャンバが全開、全閉状態になったことを検出します。 ・ ロール放出中、クラッチを切るタイミングを検出します。
16	キッカーセンサ	・ ロールが放出されたことを検出します。
17	注油ポンプ	・ 供給開始時、自動でタイトチェンに注油します。
18	コンビネーションランプ右	・ テールランプ、ウインカー左・右、ブレーキランプが点灯します。
19	コンビネーションランプ左	
20	受信機	・ 送信機の操作を受信します。
21	パトライト緑	・ 点灯：ロール成形中 ・ 点滅：ロール放出待ち
22	パトライト黄色コネクタ	・ パトライト黄を作業機本体に移動させるときに使用します。
23	添加器用出力	・ 添加器用のリレーを取付けることができます。
24	入力用コネクタ 出力用コネクタ パトライト黄色コネクタ	・ 制御用コネクタ。作業する前にコントロールボックスと接続してください。
25	DIN カプラ	・ トラクタのランプ出力をコンビネーションランプ左右に伝えます。

コントロールボックス



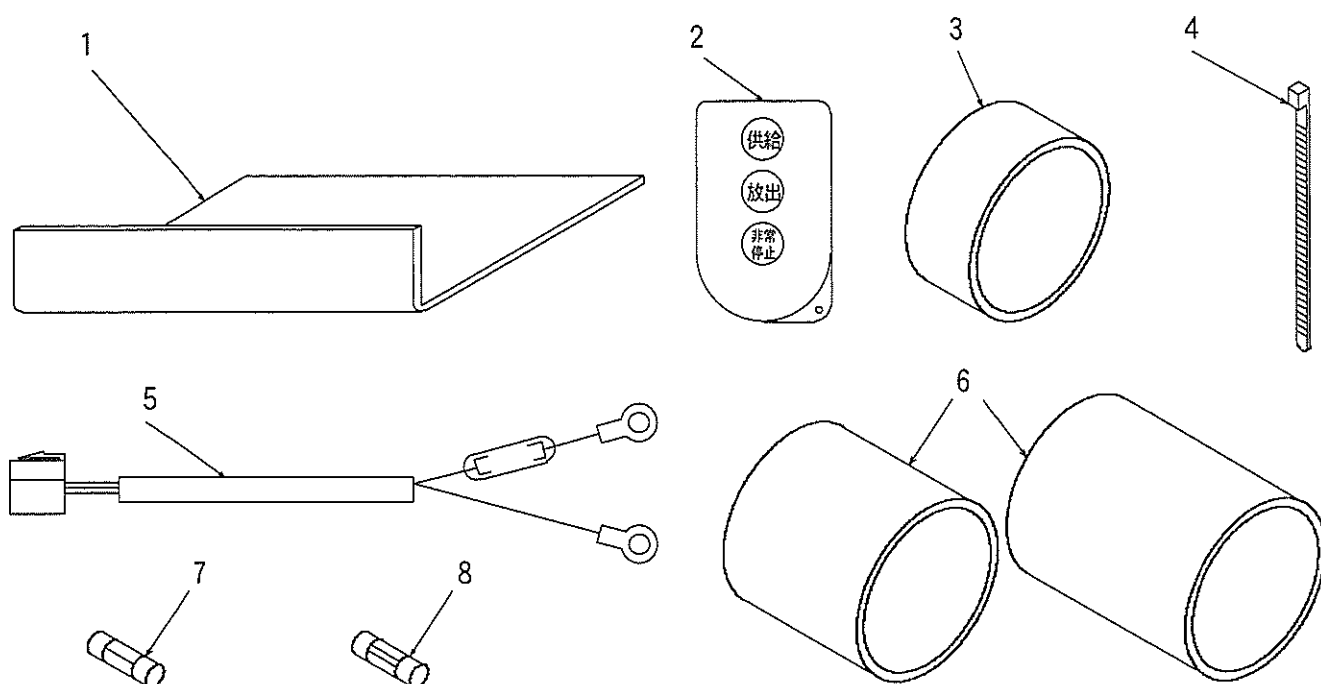
各部の名称とはたらき

・コントロール BOX の説明

番号	名 称	は た ら き
1	パトライト黄	点灯：ネット巻付け中 点滅：ネットエラー
2	ヒューズ	・異常な高い電流が流れたとき、コントロールボックスを保護します。
3	開くボタン 閉じるボタン	・押している間、チャンバーを開・閉します。 ・ロール放出待ちのとき、一度「開くボタン」を押すとチャンバーが全開まで開きます。その後、一度「閉じるボタン」を押すとチャンバーが全開まで閉じます。 ランプ点灯：全開または全閉 ※ネット巻きしていない材料が成形室にある場合、チャンバーを開かないでください。 ※チャンバーに挟まる恐れがありますので、機材の周りや中に人がいないことを確かめてからチャンバーを閉じてください。
4	入力用コネクタ	・センサ、受信機からの信号を受け取ります。
5	パトライト黄コネクタ	・パトライト黄を動作させます。 ・パトライト黄は作業機本体に移動させることができます。
6	電源コネクタ	・付属の電源コード（太）を利用し、バッテリーから直接接続してください。
7	出力用コネクタ	・モーター、油圧バルブを動かします。
8	供給ボタン	・一度押すと供給を開始しロール成形を開始します。もう一度押すと供給が停止し、ロール成形を停止します。 ランプ点灯：ロール成形中
9	非常停止ボタン	・一度押すと非常停止になります。リモコンもしくはコントロールボックスの非常停止ボタンを長押しすることで解除できます。 また、非常停止中、液晶画面に非常停止の理由を表示します。 ※緊急の場合はコントロールボックスの非常停止ボタンを一度押し、トラクタを停止させてください。
10	電源入/切ボタン	・一度押すとコントロールボックスの電源を入れ、もう一度押すと電源を切ります。
11	表示ボタン	・押している間、ロール作成個数とPTO回転数を表示します。
12	モード切替ボタン	・押す度に、「通常運転」、「そうじ」、「作業設定」、「電気チェック」を切り替えます。 通常運転：作業ができます。 ※満了感知できませんので、作業中は必ず「通常運転」を選択してください。 そうじ：10秒後にベアラ部に動力をつなぎます。 作業設定：作業の設定を行います。 電気チェック：センサの状態を確認します。
13	+ボタン・-ボタン	・「作業設定」、「メーカー設定」のとき、押すと設定値が増減します。
14	液晶画面	・作業状態、エラー内容を表示します。
15	送りボタン 戻りボタン	・押している間、コンベアを正・逆転させることができます。 ※戻りボタンは1秒以上押し続けしないでください。 機械破損の原因になります。
16	放出切替	・ロールの放出を自動で行うか手動で行うかを切り替えます。 ランプ点灯：手動放出に設定中 ※ネット巻付け後に自動に切り替えるとロール放出を行います。
17	繰出しボタン	・ベアラ部に動力をつなげネットを強制繰出しします。
18	注油ボタン	・一度押すと10秒間タイトチェンに注油します。 ランプ点滅：タイトチェンに注油中 ランプ点灯：ホサキ左・右センサどちらかが押されている
19	ネット交換サイン	ランプ点灯：ネットが残り少ない

各部の名称とはたらき

付属品



番号	名 称	は た ら き
1	コントロールボックス ベース	コントロールボックスをトラクタに取付けるときに使用します。
2	送信機	操作を受信機に送ります。 供給ボタン： 一度押すと供給を開始しロール成形を開始します。 もう一度押すと供給が停止し、ロール成形を停止します。 放出ボタン： 放出待ちのとき、押すとロールを放出しチャンバーを閉じます。 非常停止ボタン： 一度押すと非常停止になります。リモコンもしくはコントロールボックスの非常停止ボタンを長押しすることで解除できます。 また、非常停止中、液晶画面に非常停止の理由を表示します。 ※緊急の場合はコントロールボックスの非常停止ボタンを一度押し、トラクタを停止させてください。
3	カラー短	1.2m 幅ネットを装着するとき、「カラー短」を奥に入れてください。
4	リピータイ	ハーネスをタイヤやジョイントに絡まない程度にたるませ、リピータイで固定してください。
5	電源コード (太)	トラクタのバッテリーから直接コントロールボックスに接続するために利用してください。管ヒューズ 30A 付
6	カラー中 カラー長	1.0m 幅ネットを装着するとき、「カラー長」を奥に入れ、「カラー中」をドラム側に入れてください。
7	ヒューズ 15A	コントロールボックス用ヒューズの予備
8	ヒューズ 30A	電源コード用ヒューズの予備

トラクタへの装着

！ 警告

- トラクタへの本機の装着は平坦で安定した場所で行ってください。
- 二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。
- ユニバーサルジョイントは、必ずトラクタのエンジンを止め、PTOクラッチを切ってから確実に接続してください。

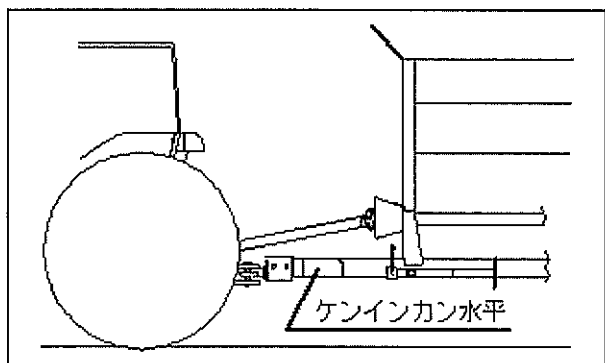
以上のことを守らないと傷害発生の恐れがあります。

1. 装着のしかた

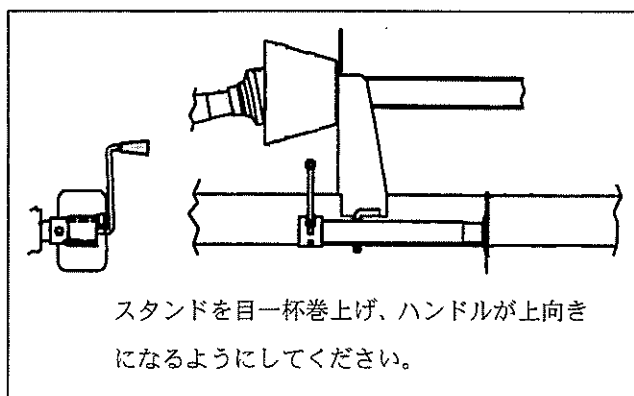
◆装着順序

本機の牽引桿をトラクターのドロワー又はコーンハーベスタのミッションのヒッチにピンで接続してください。

トラクタのドロワーの高さ調節で本機の牽引桿が水平になるようにしてください。



◆ スタンドを上げる

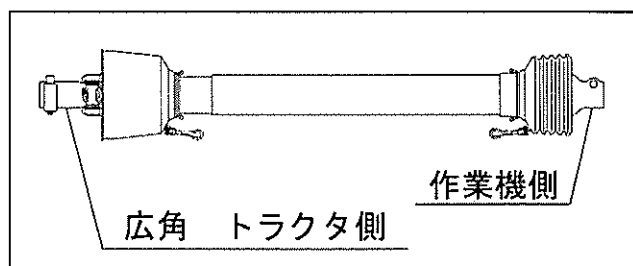


2. ユニバーサルジョイントの取付け

◆ユニバーサルジョイントの取付け順序

本機入力軸に取付けてから、トラクタPTO軸広角側を確実に取付けてください。

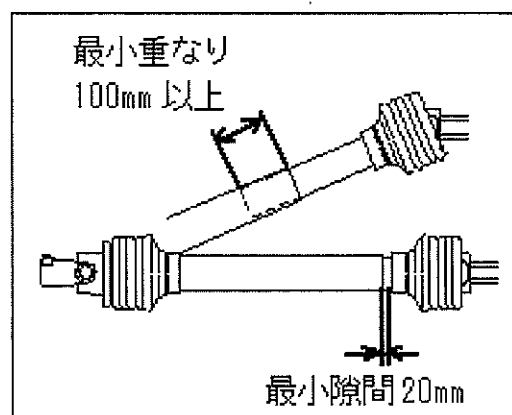
ジョイントは専用のものを使用してください。



◆ユニバーサルジョイントの長さ確認

先にジョイント長さが長すぎないかを確認してください。

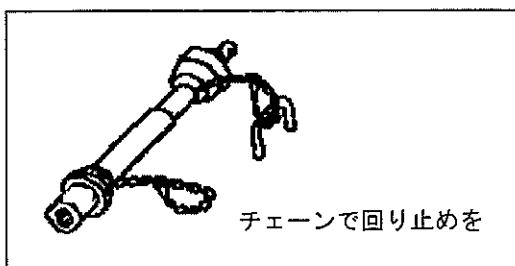
長すぎる場合、旋回時にジョイントを破損する恐れがありますので注意してください。



トラクタへの装着

◆カバー回転止めチェーンで固定を

ユニバーサルジョイントのカバーが回転しないように、チェーンに余裕をつけて、しっかりと固定してください。



◆急旋回注意

P T Oを回転させながら急旋回をすると、ユニバーサルジョイントを破損する恐れがありますので、急旋回時には必ずP T Oを切ってください。

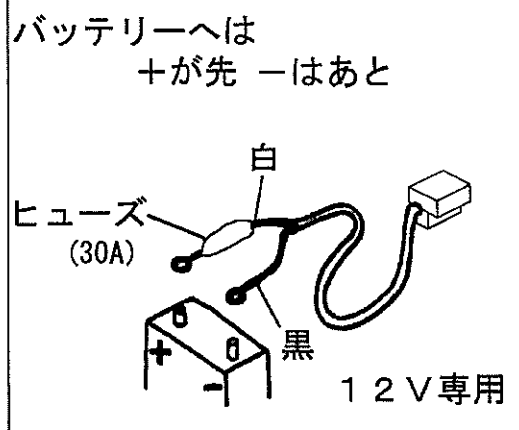
3. コントロールボックスの接続

◆電源はトラクタのバッテリーから直接取出します。

◆接続できるバッテリーの電圧は12Vです。

24Vのバッテリーに接続しないでください。

間違って接続すると、コントロールボックス内部及び電気系統が破損する恐れがあります。



◆ (+)、(-) の接続を間違えないように
白色線はバッテリーの (+) へ接続
黒色線はバッテリーの (-) へ接続

注意

(+)、(-) の接続を間違えると、コントロールボックスの液晶は表示されません。

警告

接続の順序は、(+) 側から行ってください。

また、取外すときは、(-) 側から行ってください。

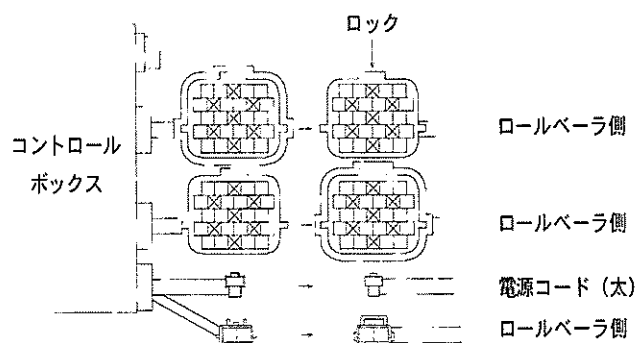
逆にすると、火花が飛び危険です。

◆配線の接続

下図を参考にして、電源コード (太) とベアラからのハーネスをコントロールボックスに接続します。

コネクタは「カチッ」音がするまで、しっかりと差し込んでください。差し込みが不十分だと正常動作しないことがあります。

また、抜くときは各コネクタのロック部分 (図の下矢印) を押しながら抜いてください。



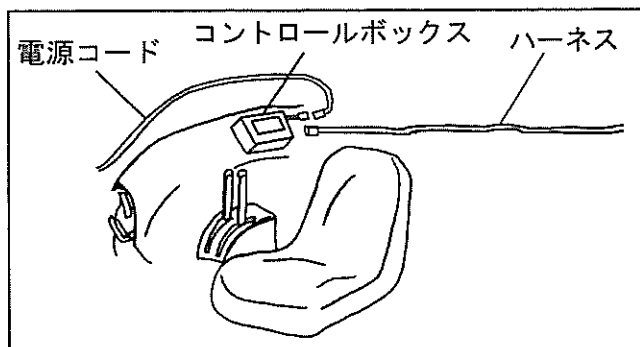
トラクタへの装着

◆コントロールボックスの取付け

コントロールボックスの裏側に永久磁石、コントロールボックスベースには穴があります。

操作のし易いように、トラクタの運転席右側に取付けてください。

また、配線が作業の邪魔にならないようにトラクタに固定してください。



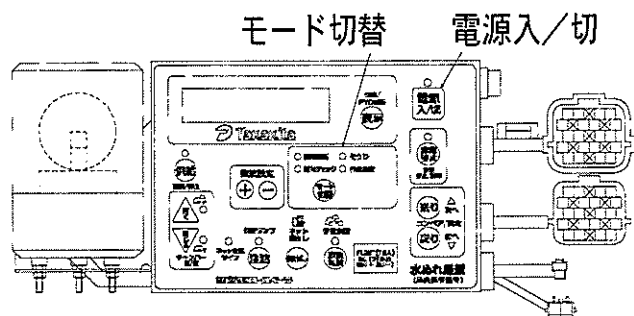
◆バッテリーの容量チェック

トラクタのエンジンをかけて、エンジン回転数を上げてください。

ヒーターの送風を最大（暖房）に、ヘッドライトをハイビームにしてデフォッガー（ガラスの曇りとり）も作動させてください。

コントロールボックスの「電源入/切ボタン」を押し電源を入れてください。

「モード切替ボタン」入れてモード切替を3回押して、電気チェックにしてください。



液晶画面に「デンゲンアツ」が表示されますので、3分程経過しても電圧が13.5V以上にならない場合、トラクタの取扱説明書に従ってバッテリーやオルタネー

タの確認または交換をしてください。

確認後はコントロールボックスの「電源入/切ボタン」を押して電源を切り、トラクタのエンジンを切ってください。

◆作業終了後は取り外して屋内に保管

作業終了後は、電源コード（太）とハーネスをコネクタより切離し、水等がかからない屋内に保管してください。

運転に必要な装置の取扱い

1. 油圧装置の取扱い

◆チャンバー開閉、アジテータ回転・床コンベア駆動用です

本機に装備している油圧装置は、チャンバー開閉、アジテータ回転・床コンベア駆動の油圧装置で、油圧ポンプ・タンク一体型の油圧パッケージと電磁バルブを装備しています。

◆P T Oが回転している間は作動します

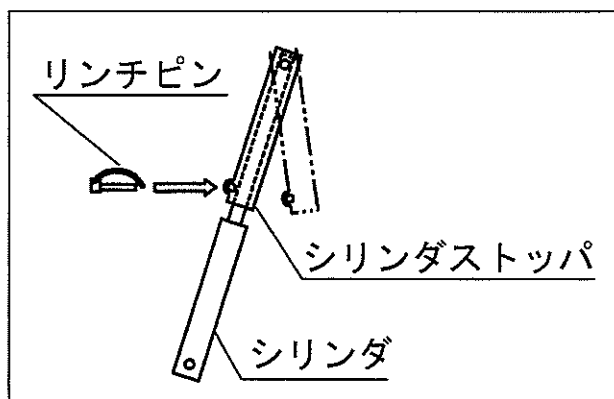
油圧パッケージは、P T Oが回転している間、油圧力が発生し、P T Oの回転が止まっていると油圧力は発生しません。

◆チャンバーの開閉、アジテータ回転・床コンベア操作のしかた

コントロールボックスのスイッチを押すとコントロールボックスの表示内容のように油圧作動します。

◆チャンバーや、ホッパーを上げたまま作業するときは

点検・整備等でチャンバーを上げたまま作業するときは、必ずシリンダストッパーをセットしてください。



危険

必ずシリンダストッパーをセットしてください。ストッパーをセットしないでチャンバーを開けた状態での点検整備は、絶対に行わないでください。
これを怠ると重大な傷害事故につながる恐れがあります。

警告

2人で作業を行う場合、必ず二人で合図をしながら、慎重に行ってください。
これを怠ると傷害が発生する恐れがあります。

2. タイトチェン注油装置の取扱い

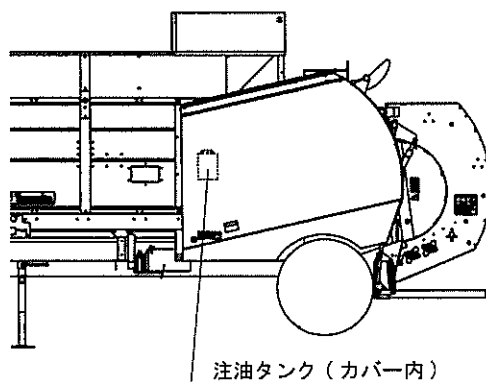
◆作業前に必ず注油してください。

タイトチェンに十分注油してください。

◆油の残量に注意

作業中は供給開始ごとに4秒間自動的に注油されます。

注油タンク内の油残量には、特に注意して、少なくなれば補給してください。



運転に必要な装置の取扱い

注意

注油タンクの油不足によりタイトチェーンに注油されない状態で作業しますと、動力負荷が急増してタイトチェーンの摩耗が多くなり寿命を低下させますので、無注油状態での使用は絶対に行わないでください。

- ◆作業前にはノズルの清掃を行ってください。

注油ノズル部にはゴミが付着することがあり、そのまま使用されますと、チェーンへの注油がされていないことがありますので、定期的に左右のノズル先端部に付着したゴミを清掃してください。

警告

点検・清掃は必ずエンジンを止めてから行ってください。

これを怠ると重大な傷害発生の恐れがあります。

3. タイトチェーン注油絞り弁の取扱い

- ◆ロール成形を始める度に、自動で4秒間タイトチェーンに注油します。

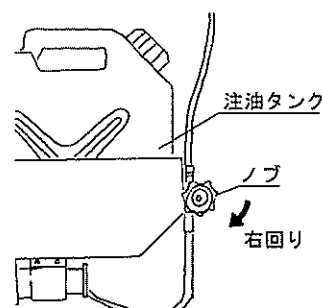
また、コントロールボックスの注油ボタンを1度押すことでタイトチェーンに10秒間注油することができます。

注油中は注油ランプが点滅します。

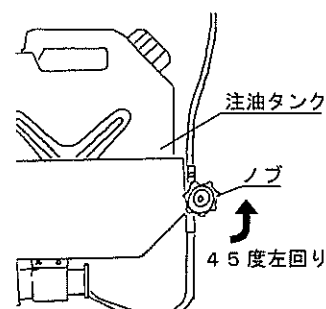
- ◆工場出荷時に調節してあり、基本的に調節する必要はありません。

誤って、ダイヤルを回してしまったときは以下の要領で調節してください。

- ①ノブを右回り（時計回り）に回らなくなるまでまわしてください。



- ②1/8回転（45度）左回り（反時計回り）にまわしてください。



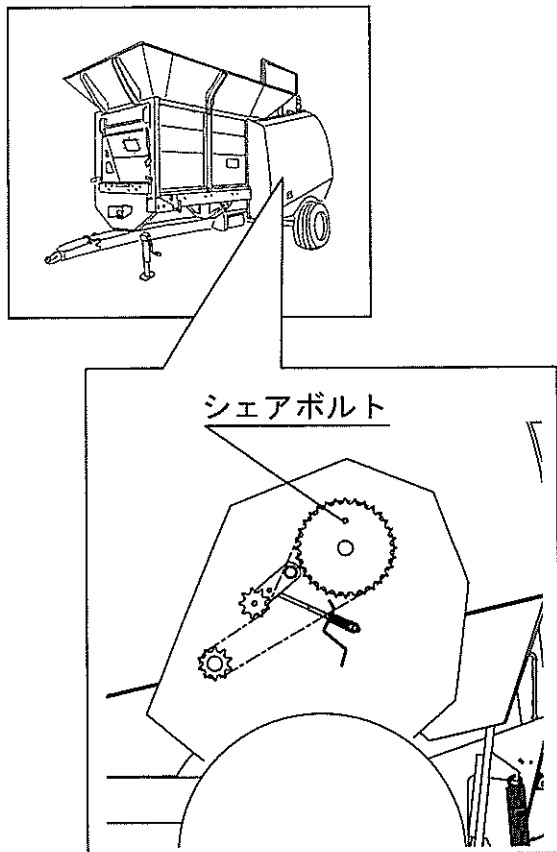
[注意]

- 注油タンクの容量は5Lです。空になる前に補給してください。
- 注油量は減らさないでください。タイトチェーンの寿命を縮めます。

運転に必要な装置の取扱い

4. シェアボルトの交換

タイトチェーン駆動部に過負荷がかかったときにボルトが切断され、本体の破損を防止します。



シェアボルトのサイズは以下の通りです。

ボルト M8×40 (8T・半ネジ)

ナット M8ナイロンナット

[注意]

シェアボルトは上記指定のボルト以外は絶対に使用しないでください。
機械破損の原因になります。

- ◆シェアボルトが切断されたら過負荷になっている原因を取り除いてください。

- ◆ボルトが切断されたら交換してください

切断されたボルトを除去して、ボルト穴を合わせてからシェアボルトとナイロンナットを確実に締付けてください。

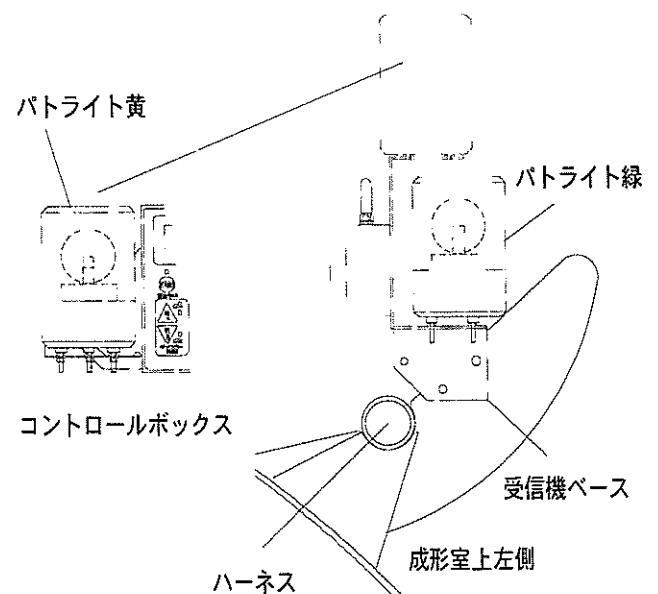
！ 注意

シェアボルトの交換を終え、再度作業を再開する時は、ゆっくりとPTOを入れてください。

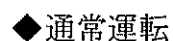
5. パトライト位置

- ◆コントロールボックスに付いているパトライト黄は移動することができます。定置でリモコン作業をする場合は移動してください。

また、材料を右側から投入する場合、パトライトが見やすい右側に受信機ベースごと移動してください。なお、ハーネスは下図の位置に束ねてあります。



6. コントロールボックスの取扱い



◆そうじの使い方

- 22 -

運転に必要な装置の取扱い

◆作業設定の変更方法

作業設定を変更することができます。

「モード切替ボタン」を押して「作業設定ランプ」を点灯させてください。

以下のボタンで設定変更してください。

- ・「送りボタン」：次の項目を表示
- ・「戻りボタン」：前の項目を表示
- ・「+ボタン」、「-ボタン」：値を変更

設定変更が終わったら、「モード切替ボタン」を押して「通常運転ランプ」を点灯させてください。

No.	表示	初期値（設定範囲）	内容
1	ロールコスウ： ルイセキコスウ：	0 コ (0,現在のカウント) 変更不可	ロールコスウを 0 にすることができます。 メンテナンスの目安に利用してください。
2	ロールチョッケイ	85cm (85,90)	ロールの径を選択します。
3	ネットリョウ	4.5 ソウ (4.5～9.9)	ネット巻付け数を設定できます。 ※ネット巻き付け数が少ないとロールが崩れ易くなります。
4	フルオート	ON(ON,OFF)	ロールを放出した後、続けてロール成形します。 ※ロールの放出はコントロールボックスの「放出切換」で設定してください。

運転に必要な装置の取扱い

◆電気チェック

各部のセンサの状態を表示することができます。メンテナンスにご利用ください。

「モード切替ボタン」を押して「電気チェックランプ」を点灯させてください。

以下のボタンで表示を切替えてください。

「送りボタン」：次の項目を表示

「戻りボタン」：前の項目を表示

設定変更が終わったら、「モード切替ボタン」を押して「通常運転ランプ」を点灯させてください。

No.	名称	説明
1	PTO カイテン デングデンアツ	PTO センサの ON/OFF を表示 電源電圧を表示
2	マンリョウカンチ PT チャンバーカイ PT	満了感知ポテンシオメータの電圧を表示 チャンバポテンシオメータの電圧を表示
3	カム 1 センサ カム 2 センサ	カム 1 センサの ON/OFF を表示 カム 2 センサの ON/OFF を表示
4	カウントセンサ ネットザンリョウセンサ	ネットカウントセンサ ネット残量センサ
5	キッカーセンサ チャンバーヘイセンサ	キッカーセンサ 本製品では使用しません
6	ネットホサキヒダリセンサ ネットホサキミギセンサ	ホサキ左センサ ホサキ右センサ
7	クラッチイリセンサ クラッチキリセンサ	クラッチ入センサ クラッチ切センサ
8	コンベアセンサ キョウキュウ RSW	本製品では使用しません。 リモコンからの供給信号の ON/OFF を表示
9	ハウシュツ RSW ヒジョウテイシ RSW	リモコンからの放出信号の ON/OFF を表示 リモコンからの非常停止信号の ON/OFF を表示

運転に必要な装置の取扱い

◆メーカー設定

作業の詳細な設定を変更することができます。作業できなくなる可能性がありますので、設定を変更する場合は販売店にお問い合わせください。

「+ボタン」、「-ボタン」を押しながら、「電源入/切ボタン」を押して、コントロールボックスの電源を入れてください。

- ・「送りボタン」：次の項目を表示
- ・「戻りボタン」：前の項目を表示
- ・「+ボタン」、「-ボタン」：値を変更

設定変更が終わったら、「モード切替ボタン」を押して「通常運転ランプ」が点灯させてください。

No.	表示	初期値（設定範囲）	内容
1	カンチキヨリφ85	40mm(10～150)	φ85 ロール成形の満了位置を設定
2	カンチキヨリφ90	150mm（10～150）	φ90 ロール成形の満了位置を設定
3	ヨカンチキヨリ	10mm（10～）	予め満了を知らせる位置を設定
4	PT ソクテイカンカク	0.1s（0.0～9.9）	満了感知ポテンシオメータの初期位置を測定する時間を設定
5	PT ソクテイカンカク 2	1.0s（0.0～9.9）	満了感知ポテンシオメータの満了位置を測定する時間を設定
6	サイテイデンアツ	1.00V（0.00～2.00）	満了感知ポテンシオメータの測定範囲外を設定
7	サイダイデンアツ	4.00V（3.00～5.00）	
8	カンリョウブザー	0.5s（0.0～9.9）	ネット巻き終了ブザーが鳴る時間を設定
9	チャンバーカクニン	2.0s（0.0～9.9）	チャンバーが閉まったことを確認する時間を設定
10	カウントエラージカン	5.0s（0.0～9.9）	ネットエラーになる時間を設定
11	センサエラージカン	10s（0～99）	各センサがエラーになる時間を設定
12	クラッチマチジカン	5s（0～99）	クラッチ接続エラーになる時間を設定
13	ホサキセンサチエン	0.5s(0～9.9)	ホサキセンサの反応時間設定
14	ジドウチュウユ	4.0s（0～99.9）	自動で注油する時間を設定
15	シュドウチュウユ	10s（0～99）	手動で注油する時間を設定
16	マンリョウカンチ ホーン	2.0s（0.0～9.9）	ネット巻き開始ブザーが鳴る時間を設定

運転に必要な装置の取扱い

17	コンベアオクレ	1.5s (0.0~9.9)	ネット巻き開始時、コンベアが動作する時間
18	ネットカウント	0.314m (0.000~9.999)	カウンタローラの周長を設定
19	ロールケイφ85	0.850m (0.00~9.99)	φ85 ロールの直径を設定 (ネット)
20	ロールケイφ90	0.900m (0.00~9.99)	φ90 ロールの直径を設定 (ネット)
21	バックアップモード	OFF (ON,OFF)	ネットカウントセンサを使用せずに、タイマーでネット巻きする。
22	バックアップ クリダシ	5s (0~9)	21 のとき、ネットを繰出す時間
23	バックアップ ケツソク	10 (0~99)	21 のとき、ネットで結束する時間
24	キッカーセンサ	ON (ON,OFF)	キッカーセンサの有効・無効を設定
25	デンアツケイコク	10.0V (0.00~5.00)	電圧降下エラーをになる電圧を設定
26	カタマキチェック	ON (ON,OFF)	ネットの片巻きチェックの有効・無効を設定
27	クラッチデンアツ	-V (0.00~5.00)	ロール放出時、クラッチを切る電圧を設定
28	ゼンカイデンアツ	-V (0.00~5.00)	全開になる電圧を設定
29	ゼンヘイデンアツ	-V (0.00~5.00)	全閉になる電圧を設定
30	ネットケツソク ヨブン	0.20m (0.00~9.99)	ネット巻き誤差を設定
31	クリダシリョウ	1.0 ソウ (1.0~9.9)	ネットを繰出す量を設定
32	PTO センサ	ON (ON,OFF)	PT0 センサの有効・無効を設定
33	カンチジカン	0.2s (0.0~9.9)	満了位置を越えて感知なるまでの時間を設定
34	ネットクリダシ オクレ	0.5s (0.0~9.9)	供給が停止してからネット繰出しを始めるまでの時間
35	デンアツエラー ジカン	1.0s (0.0~9.9)	設定電圧以下になりエラーになる時間を設定

運転に必要な装置の取扱い

7. 使用できるネット

- ・ネットの種類によりトラブルがでることがありますので、必ず指定ネットを使用してください。

ネット（別売品）は当社で準備しております。

- ・ネットの幅寸法

ネットの幅寸法を確認してください。
下記のネットしか使用できません。

1. 0.3m幅ネット(タカキタ指定のみ)

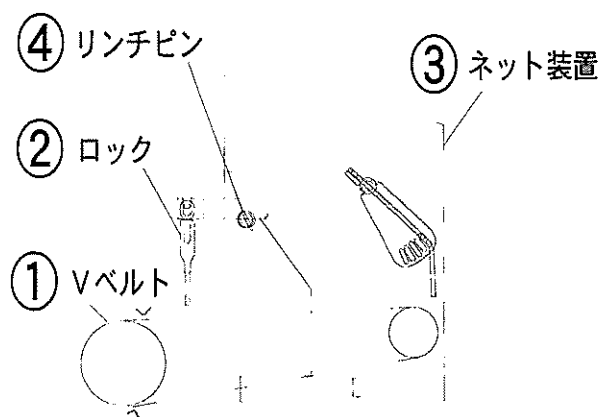
1. 2.3m幅ネット(タカキタ指定のみ)

タカキタ指定ネットは、ネットの芯がネットブレーキ装置に適した硬い紙筒を使用しています。

8. ネット装置の取扱い

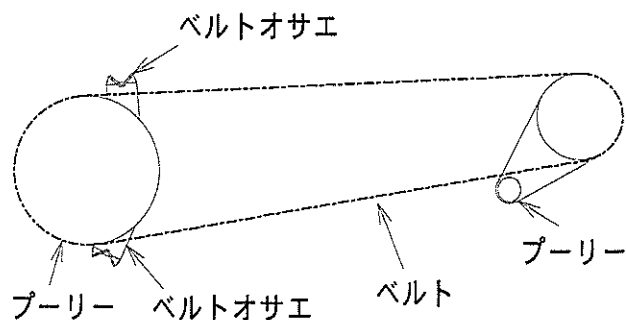
◆ネット装置の引き出し方法

1. ①Vベルトをはずしてください。
2. ②ロックをはずしてください。
3. ③ネット装置を手前に引き出してください。
4. ネット装置を戻す場合は、逆の手順で戻してください。
ネット装置を向こう側に引出す場合は、④リンチピンを外し、向こう側から引出してください。



◆ベルトの取付け方

ベルトの取付け方は下図のように行ってください。



運転に必要な装置の取扱い

9. ネットの通し方

使用可能なネットは1m幅および1.2m幅です。

1. 本機左側のカバーを開けてください。
2. ①リンチピンを外して、ブレーキを解除してください。
3. フックを②方向に持ち上げ、アームを③方向に引き出し、④ドラムを矢印の方向（手前）に抜き出してください。
4. アームに⑤カラー長を入れてください。
(1.2m 幅のネットの場合は⑭カラー短を入れてください)
5. アームに⑥ネットを巻き方向に注意し図1のように差し込んでください。
6. ドラムに⑦カラー中を奥まで入れてください。
(1.2m 幅ネットの場合は不要です)
7. アームにドラムを⑧右に回しながら押し込んでください。
8. ネットを図2のように⑨1m 程度引き出してください。
9. 図2のようにネットブレーキレバーを⑩解除方向へ押しながら、⑪アームを戻し、フックで固定してください。
10. ネットを束にして図3のように通してください。
11. 繰出しローラーを回してネットのたるみを無くしてください。
12. 繰出しローラーから⑫20cm 程度ネットが出る状態になっていることを確認してください。

！ 注意

- ・切断用のナイフがローラーの後ろにあります。ネットを通すときはコントロールアームを⑬の方向に押し上げ、フックにコントロールアームを引っかけてください。
- ・ネットの種類によりトラブルが出ることがありますので必ずタカキタ指定のネットを使用してください。

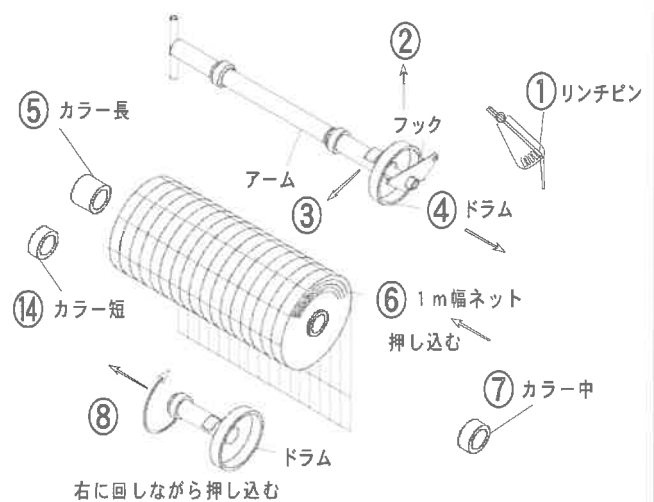


図1 (1mネットセット図)

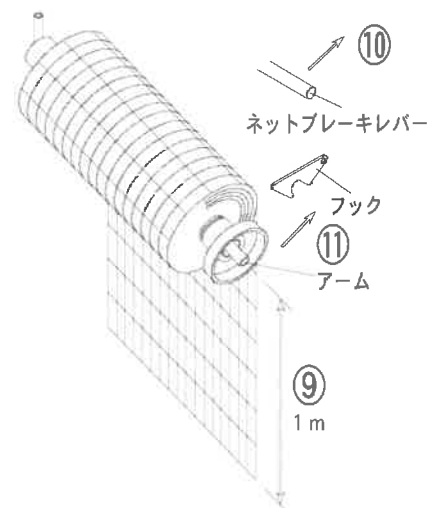


図2 (1mネットセット図)

運転に必要な装置の取扱い

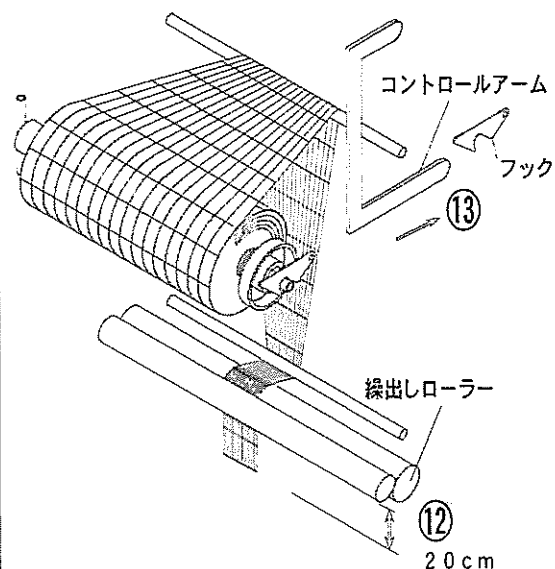
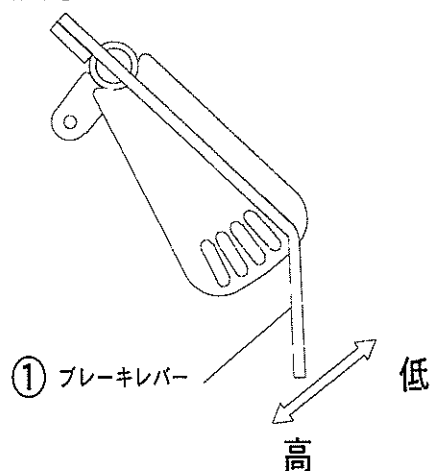


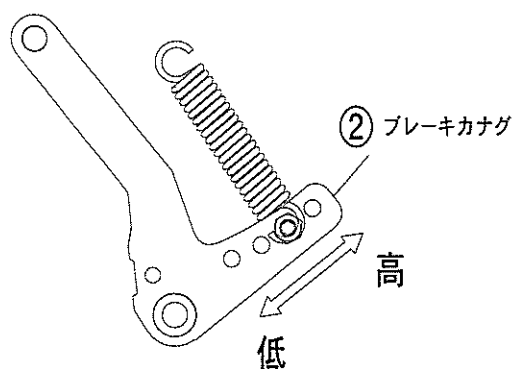
図 3 (1m ネットセット図)

10. ブレーキの調整方法

1. ①ブレーキレバーでネット張力を調整してください。
 - ・ネットが切れる場合、低位置に設定してください。
 - ・ネット結束が弱い場合、高位置に設定してください。



2. ブレーキレバーで調整しきれない場合、②ブレーキカナグのバネの位置を変更してください。



11. ネット装置の作業前点検

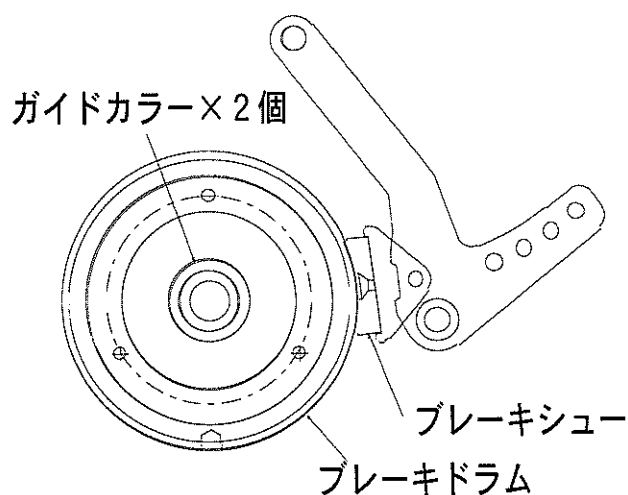
◆ブレーキドラムが錆びているときは、ブレーキレバーを低い位置で始めてください。その後、錆が落ちてからブレーキレバーを適正な位置に移動してください。

◆ブレーキシューの面にゴミが付着していると適正なネット結束ができなくなります。ネットを交換するとき、必ずゴミが付着していないか確認してください。

また、ブレーキシューは消耗部品です。ブレーキシューが減るとネット結束不足が起きます。前項の「ブレーキ調整方法」でブレーキ調整しても調整しきれなくなった場合、ブレーキシューを交換してください。

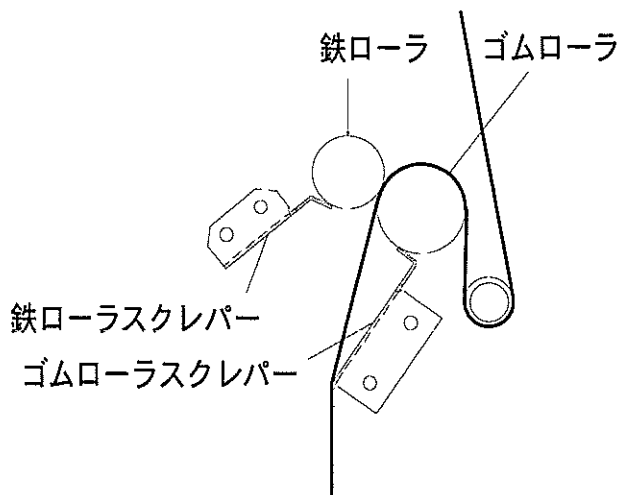
◆ガイドカラーは消耗品です。

ガイドカラーの内径が削れるとネット結束不足が起きます。前項の「ブレーキ調整方法」でブレーキ調整しても調整しきれなくなった場合、カラーを交換してください。



運転に必要な装置の取扱い

- ◆ゴムローラと鉄ローラにゴミが付着すると、ネット繰出し時そのローラに巻き付きます。付着しているゴミはードライバーなどで削り落としてください。
※ゴムローラに傷が付き、巻き付きの原因になるので、カッターナイフは使用しないでください。
- ◆朝露や材料の水蒸気でそのローラが濡れている場合、濡れタオルで粘り気を取った後、乾いたタオルで、拭いてください。
- ◆ゴムローラスクレパー上に材料が付着するとネット繰出し時ローラに巻き付きます。材料が付着している場合、濡れタオルで材料を取った後、乾いたタオルで、拭いてください。



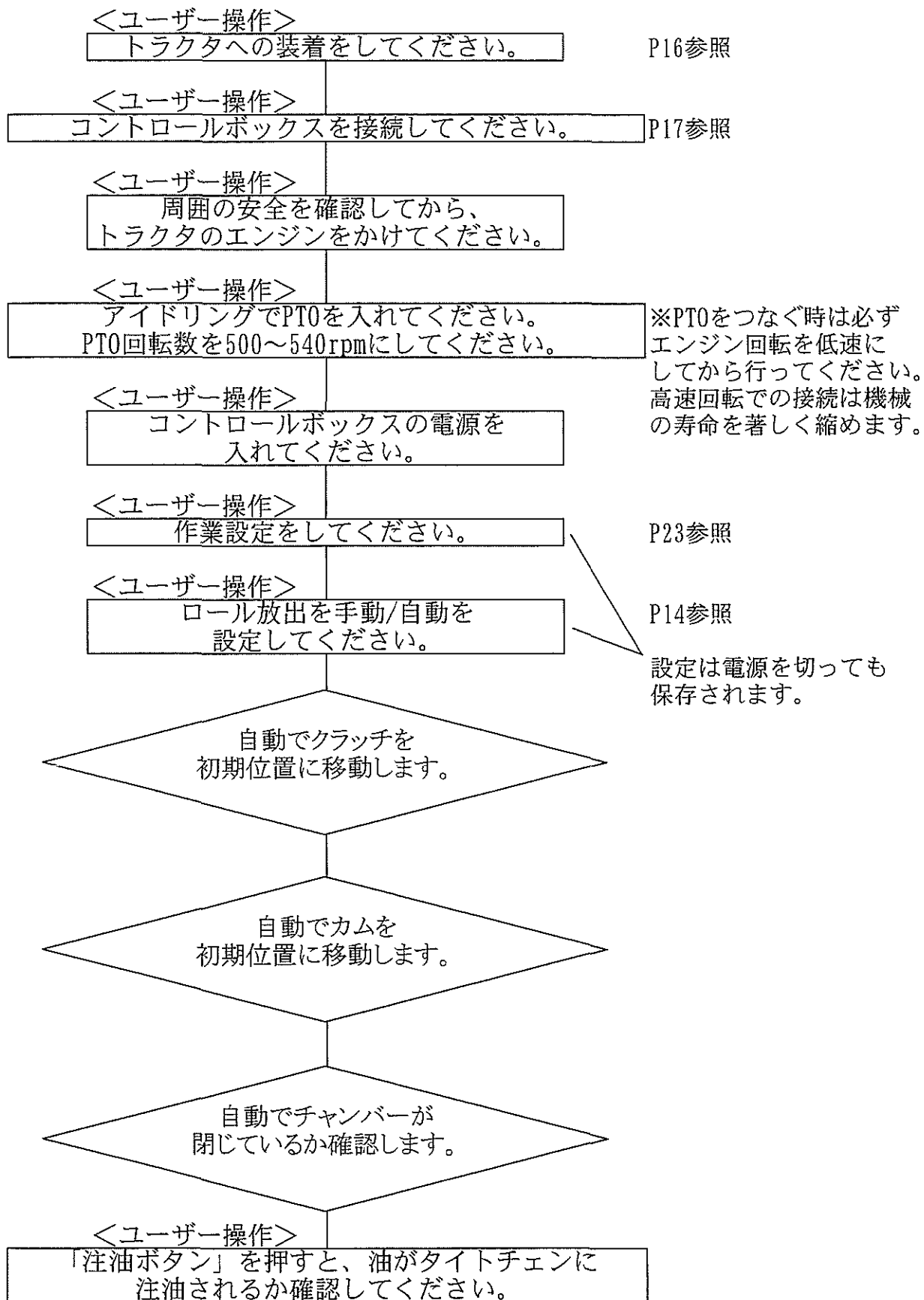
12. 使用時にこれだけは守りましょう

- ・ナイフの刃こぼれがある場合は、研磨するか交換してください。
 - ・ネットは紙筒を使用している為、水濡れ厳禁です。
- また、屋外保管の場所は、ネットを取り外し屋内で保管してください。

作業方法

1. 作業前準備の流れ

- ネットを取り付けてください。
- 各部の給油・グリスアップを行ってください。
- 注油タンクにオイルを補充してください。



作業方法

2. 作業の流れ

マキ:4.5	緑	黄
フルオート:ON ロール:85	消灯	消灯

<ユーザー操作>

コントロールボックスまたは
リモコンの「供給ボタン」を押してください。

クラッチが接続され材料を成形室に送られます。

30 マンリョウゲージ	緑	黄
40	点灯	消灯

成形室が満了近くなるとブザーが
断続音で鳴ります。

※ネットエラーになった場合

ネットワコウカンシ、ネットクリダ シスイッチヲオシテクダサイ	緑	黄
もしくは		
ネットガカタマキニナッテイマス ローラヲソウジシテクダサイ	消灯	点滅

<ユーザー操作>

PTOを切りエンジンを切ってください。
ネットが無くなった・ネットを交換 P27参照
ローラに巻き付いた・巻き付きを解く
ネットがちぎれた・ブレーキを低位置 P29参照

<ユーザー操作>

エンジンをかけPTOを入れてください。
(500～540rpm)

<ユーザー操作>

コントロールボックスの「繰出しボタン」を
押してください。

成形室が満了になるとブザーとホーンが
連続音で鳴ります。

0.5 ソウ ネットクリダシ	緑	黄
1.0 ソウ チュウ	消灯	点灯

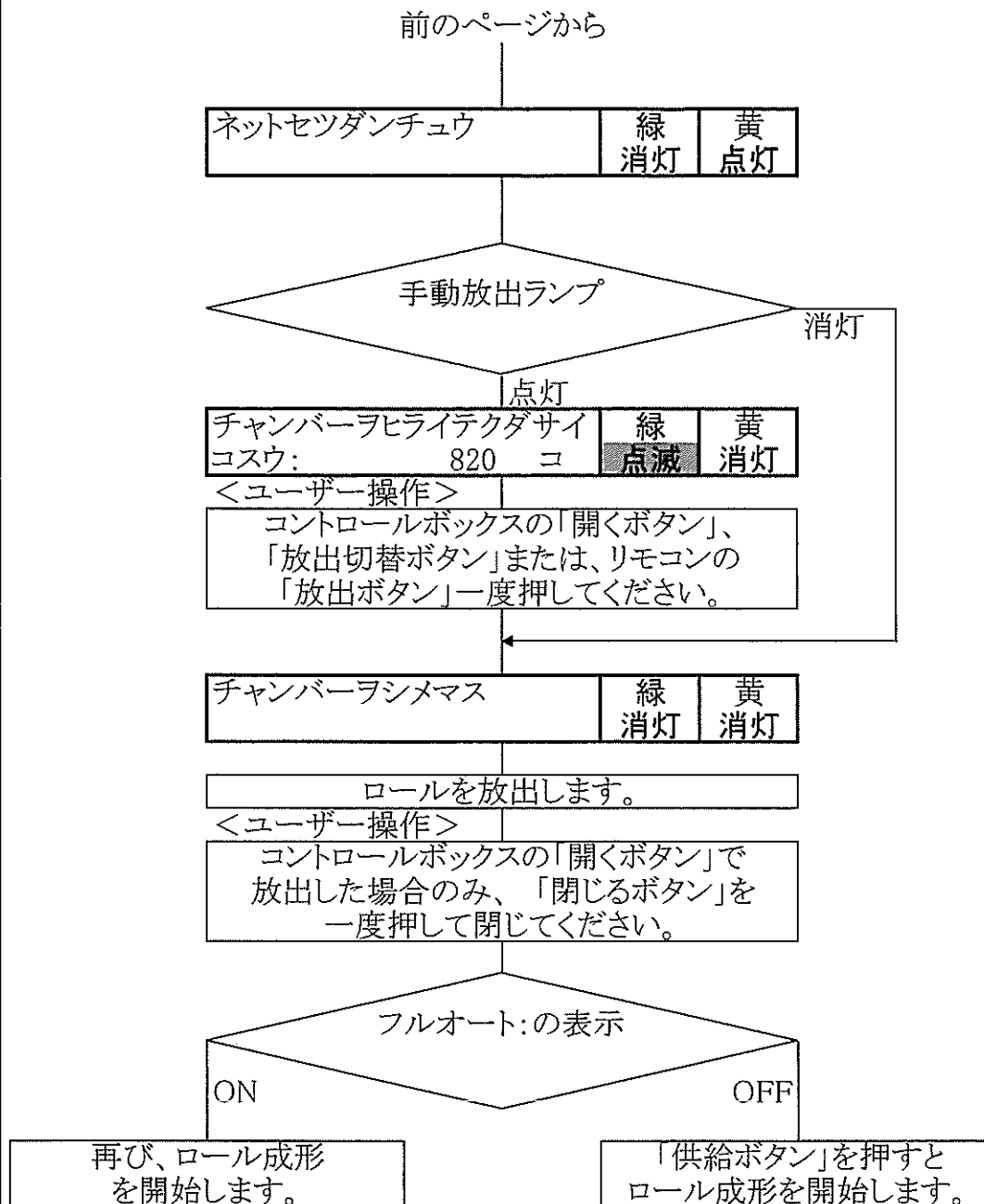
ブレーキを解除して、ネットを繰出します。

2.5 ソウ ネットケツソク	緑	黄
4.5 ソウ チュウ	消灯	点灯

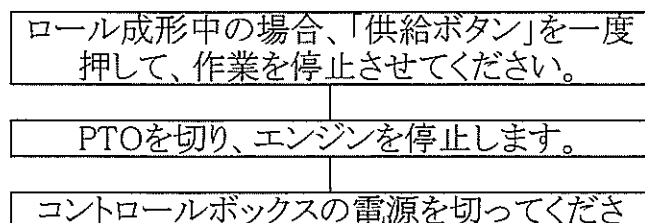
ブレーキをかけ、ネットを結束します。

次のページへ

作業方法



3. 作業後の流れ

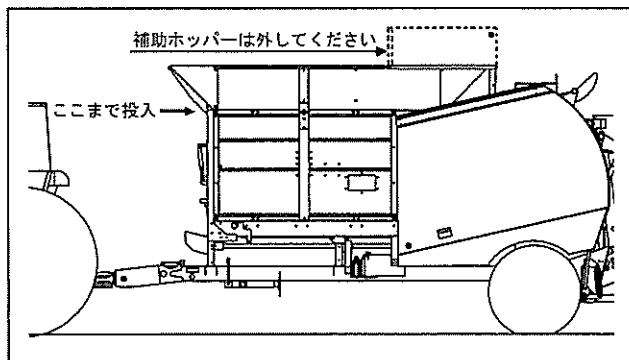


作業方法

4. 定置作業手順

作業前の準備

- トラクタドローバへ作業機を接続してください。
- ユニバーサルジョイントを接続してください。
- 補助ホッパーは外してください。
(機体の左右から投入できるようになります。)
- コントロールボックスを接続してください。
- ホッパー内へローダ等で収穫物を投入してください。



5. 伴走作業手順

作業前の準備

- トラクタドローバへ作業機を接続してください。
- ユニバーサルジョイントを接続してください。
- 補助ホッパーを取り付けてください。
(ホッパーからのふきこぼれが低減できます。)
- コントロールボックスを接続してください。

6. ワンマン作業手順

作業前の準備

- トラクタへコーンハーベスタを接続してコーンハーベスタのヒッチに本機を接続してください。
- ユニバーサルジョイントを接続してください。
- コントロールボックスを接続してください。
- 補助ホッパーを取り付けてください。

作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。
作業前の点検は、欠かさず行ってください。



警告

- 取外したカバー類は必ず取付けてください。衣服が巻き込まれたりして危険です。
- 点検・整備をするときはP T Oを切り、エンジンを停止させて回転が止まってから行ってください。

点検一覧表

No.	項 目	内 容	参照ページ	チェック
1	コントロールボックス電源	電源ランプ点灯確認	1 7	
2	タイトバーのゆるみ	増締	—	
3	油圧動作確認	コントロールボックスで操作	1 3	
4	コントロールボックスの動作確認		1 3	
5	側面駆動チェーンの張り調整	テンションボルト調整等	5 5～5 7	
6	ユニバーサルジョイントの接続確認		1 6	
7	タイヤ	空気圧不足のときは空気補充	5 2	
8	パッケージ給油	油圧オイル補充	5 1	
9	タイトチェーン自動給油	ギヤオイルまたはマシーンオイル補充	4 0	
1 0	その他各部注油・グリス	各部への給油参照	4 2～4 5	

点 検 メ モ

作業後の手入れと格納について

危険

- トラクタのエンジン回転中やエンジンが熱い間は、燃料を抜いたり、注油・給油を絶対にしないでください。燃料などに引火して、火災の原因になります。
- トラクタに燃料補給や燃料を抜くときは、くわえタバコ・裸火照明は絶対にしないでください。燃料に引火して、火災を起こすおそれがあります。
- トラクタに燃料補給や燃料を抜いた後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。守らないと、火災やヤケドの原因になります。
- トラクタのエンジンが熱い間は、シートなどを絶対にかけないでください。火災の原因になります。
- 油圧パッケージが熱い間は、オイルを抜いたり給油を絶対にしないでください。オイルなどに引火して、火災やヤケドの原因になります。

警告

- 点検・整備をするときは、必ずトラクタのエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから行ってください。機械に巻き込まれてケガをするおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、平坦で安定した場所で行ってください。本機が転倒するなど、思わぬ事故の原因になります。

1. 機体の洗浄のしかた

作業終了後、本機を水洗いし、水洗い後は下記に従って、掃除を行ってください。

- 回転部に巻き付いているゴミを取り除く。
- 水分をよくふき取る。
- 油をしみこませた布で清掃する。
- 刈刃の先端などサビやすい所にグリスを塗る。
- チェン・ワイヤー類、および回転部に注油する。(P 44・45 参照)
- ベアリング等へのグリスアップ。

[重要]

水洗いをするときは、センサ・スイッチ等の電装品に水をかけないでください。故障の原因になります。

作業後の手入れと格納について

2. 各部の掃除のしかた

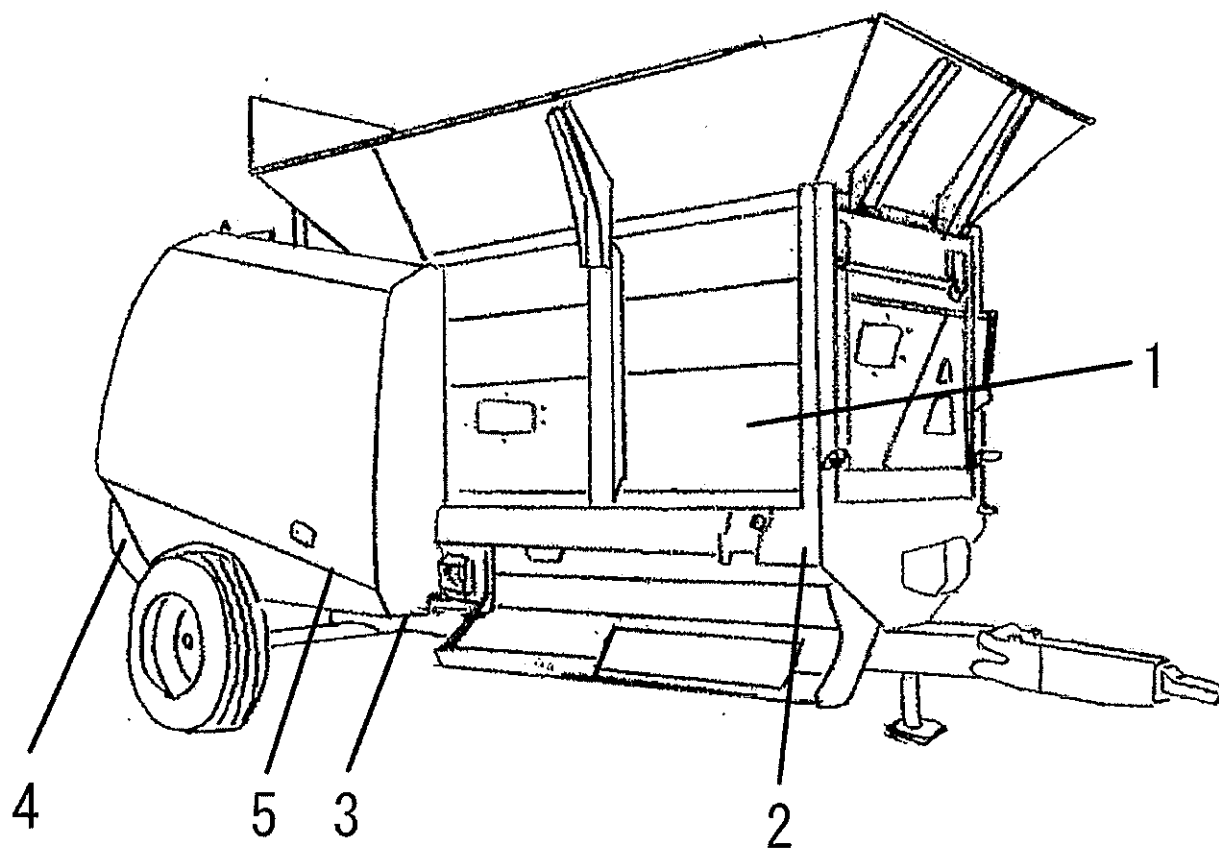
⚠ 警告

- 掃除をするときは、必ずトラクタのエンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
- トラクタのエンジンをかけたまま手入れをすると、回転刃や刈刃などで手をはさまれ、ケガをするおそれがあります。

[参考]

掃除をした後は、取り外したカバーやオープンした箇所を元に戻してください。

作成するロールの品質低下と異品種の混種を防ぐために、ホッパー及びベール内の残留物を取り除き、各部をきれいに掃除してください。



1. ホッパー内の掃除

3. コンベア下部の掃除

5. 油圧モータ周辺の掃除

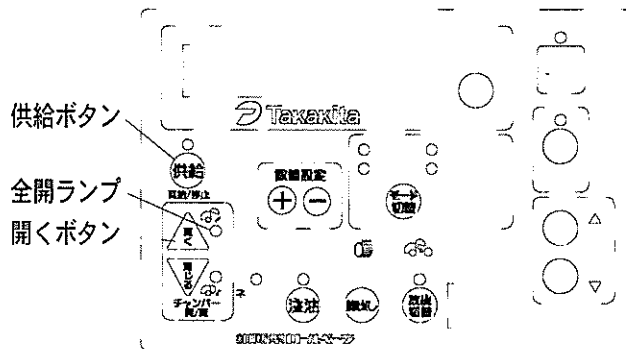
2. 床コンベア前部の掃除

4. リヤチャンバー内の掃除

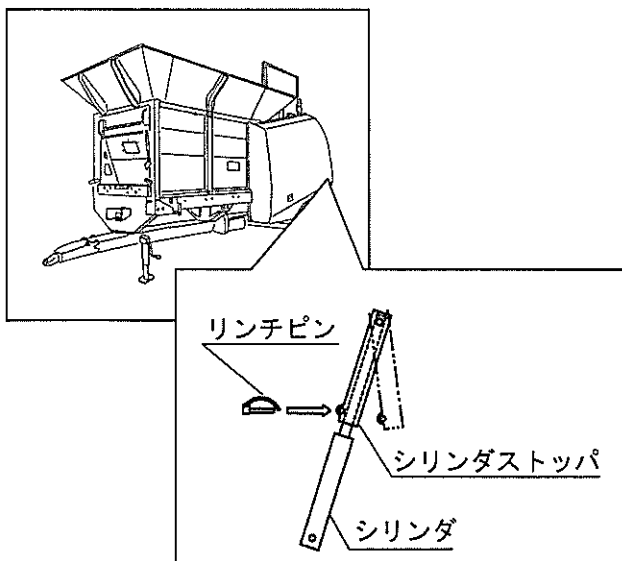
作業後の手入れと格納について

3. ホッパー内の掃除

1. トラクタのエンジンをかけ、PTO をつないでください。
2. コントロールボックスの「供給ボタン」を一度押し、床コンベア・タイトバーを駆動してください。

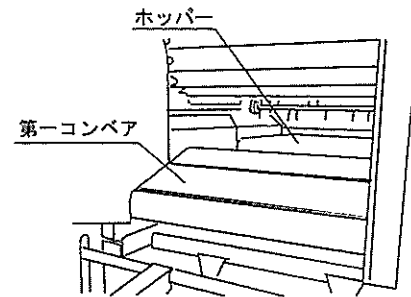


3. ホッパー内の残留物が成形室に全て搬送されるのを確認できましたら、再度「供給ボタン」を一度押し、床コンベア・タイトバーの駆動を止めてください。
4. コントロールボックスのチャンバー「開くボタン」をチャンバー「全開ランプ」が点灯するまで押し続け、リヤチャンバーが全開になりましたらシリンドラロックをしてください。



5. トラクタのPTO を切り、エンジンを止めてください。

6. ホッパー内・第一コンベアに残っている残留物をほうき等でかき出してください。



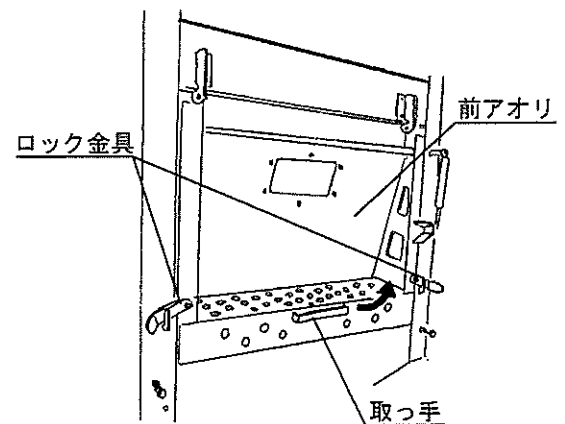
[注意]

コンベアを掃除する場合には、先端が鋭利なものは使用しないでください。コンベアを破損する原因になります。

7. ホッパー内に残留物がある場合は前アオリを開け、ほうき等でかき出してください。

[注意]

前アオリの開閉は必ず前アオリの取っ手を持って行ってください。その他の部分を持って開閉を行うと手を挟むおそれがあります。

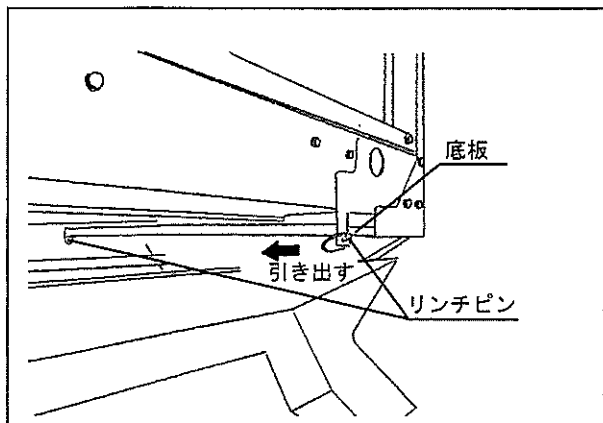


8. 掃除が終了しましたら、4のリヤチャンバー内の掃除を行ってください。

作業後の手入れと格納について

4. 床コンベア前部の掃除

1. 左右のリンチピンを外し、底板を機体後方に引き出して取り外し、溜まった残留物を取り除いてください。

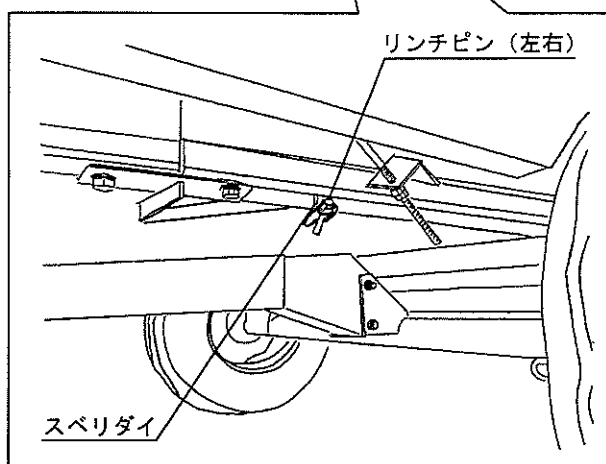
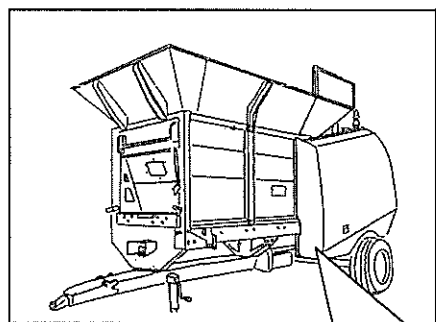


(機体右後方より見ています。)

2. 残留物を取り除いた後は、底板は元通りに組付け、リンチピンで固定してください。

5. コンベア下部の掃除

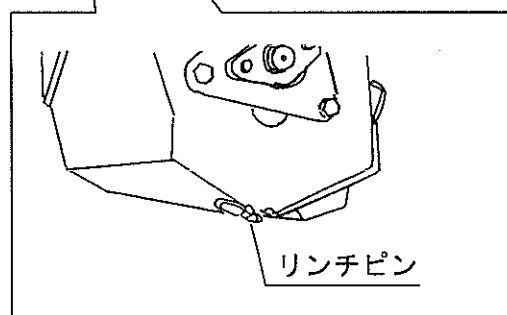
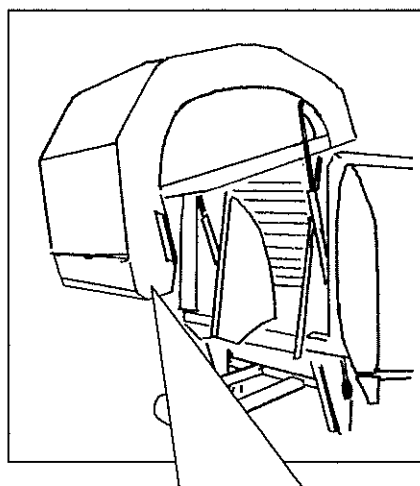
1. 左右のリンチピンを外し、スベリダイを開けて、残留物を取り除いてください。



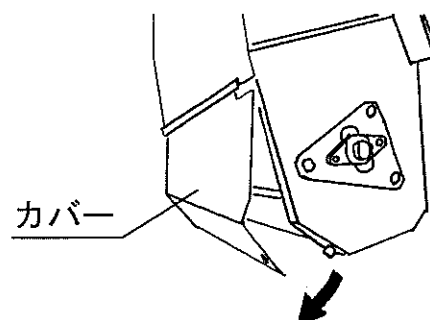
2. 残留物を取り除いた後は、スベリダイを元の位置にリンチピンで固定してください。

6. リヤチャンバー内の掃除

1. リヤチャンバーが開いていない場合は前頁の3のホッパー内の掃除を参考にリヤチャンバーを開けてロックしてください。
2. リヤチャンバー折返し部の左右のリンチピンを取り外してください。



3. カバーを開け、中に溜まった残留物を取り除いてください。

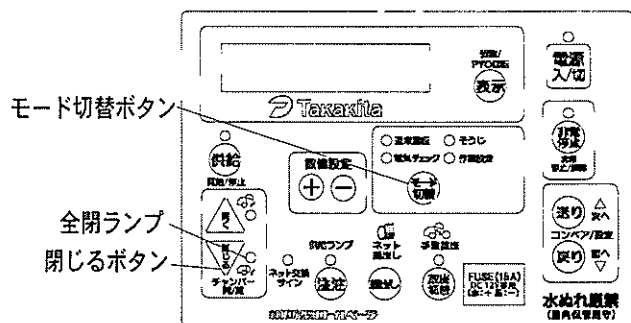


作業後の手入れと格納について

【注意】

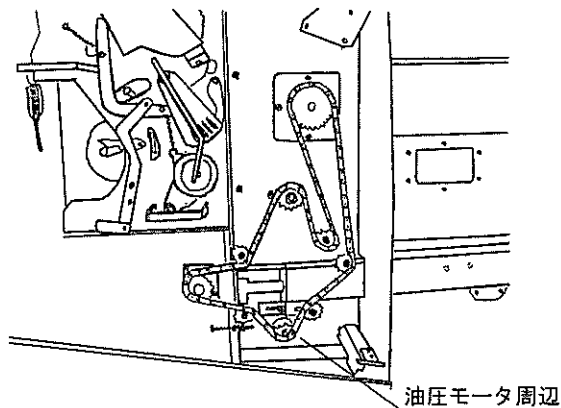
掃除しないまま放置しておきますと、残留した作物が腐敗し、雑菌がロールに混入してサイレージの品質を劣化させるおそれがあります。

4. トラクタのエンジンをかけ、アイドリングでPTOをつないでください。
5. 「モード切替ボタン」を押して「そうじランプ」を点灯させてください。
10秒後にクラッチが接続されます。
※クラッチ接続中は危険ですので、近づかないでください。
6. タイトチェンから残留物が落ちなくなったら、「モード切替ボタン」を押して「通常作業ランプ」を点灯させてください。
7. PTOを切り、エンジンを停止させてください。
8. 掃除が終わりましたら、リンチピンでカバーを固定し、シリンダーロックを外してください。
9. コントロールボックスのチャンバー「閉じるボタン」を「全閉ランプ」が点灯するまで押し続け、リヤチャンバーを閉じてください。



7. 油圧モータ周辺の掃除

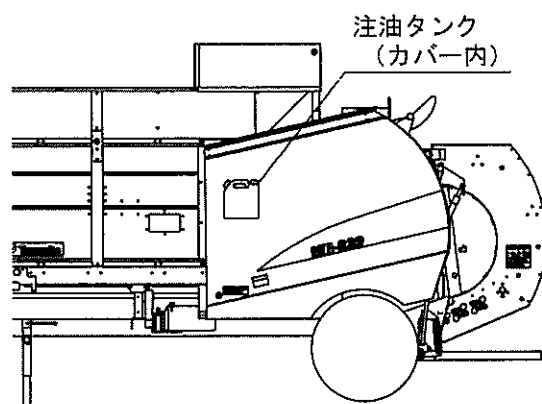
本機右側のカバーを開け、油圧モータ周辺にたまった塵等を取り除いてください。



8. タイトチェンの注油

必ず毎回行ってください。

1. 注油タンクにオイルを入れてください。
オイルはエンジンオイルSAE 5W-30又は、10W-30を使用してください。(5L)



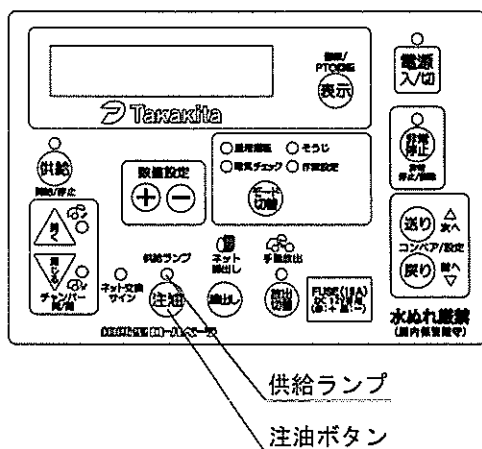
【注意】

- 無給油で運転するとタイトチェンの寿命を縮めますので、必ず給油してください。
- チェンの注油ポンプは自給式を採用していますので、タンク内が空になった際もオイルを供給すれば、エア抜きなしでタイトチェンに注油できます。

作業後の手入れと格納について

- コントロールボックスの注油スイッチを押してオイルの吸い込みを確認してください。
- 粘度の高いオイルはモータの故障の原因になりますので、使用しないでください。
- 給油前に、給油ノズル先端のゴミを取り除いてください。

2. トラクタのエンジンをかけて、アイドリングでPTOをつないでください。
3. 注油ボタンを1度押して、タイトチェンに注油してください。(注油ボタンは1度押すと10秒間注油され、注油中は供給ランプが点滅します。)



7. タイトチェンは1周するのに約20秒かかります。搬送ランプの点滅が終わりましたら、もう1度注油ボタンを押してください。
8. 注油ができましたら、トラクタのPTOを切り、エンジンを止めてください。

作業後の手入れと格納について

(自動注油部以外)

必ず毎回行ってください。

⚠ 注意

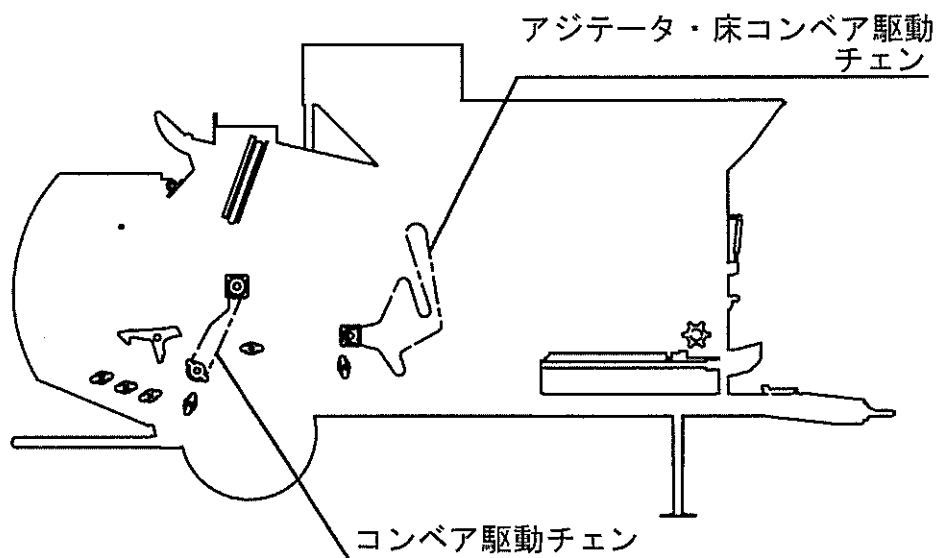
注油をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。
ケガをするおそれがあります。

【参考】

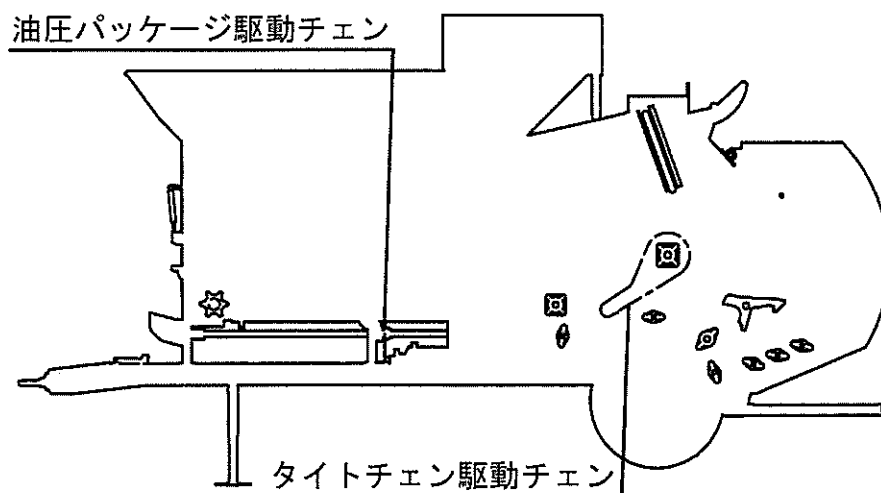
低温時（5℃以下）には、オイルの一部が固くなり、分離しているような状態になることがあります。分離しているときは、常温に戻してから使用してください。

9. 各部のチェーンへの注油

(右側)



(左側)

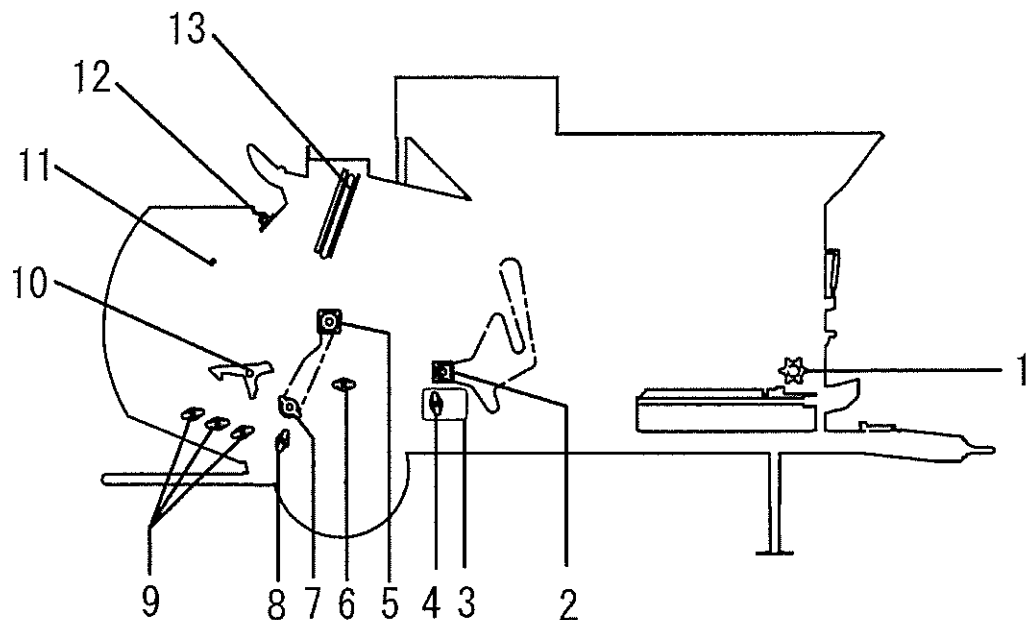


作業後の手入れと格納について

10. 各部のグリスアップのしかた

実施時期は50時間毎です。

(右側)



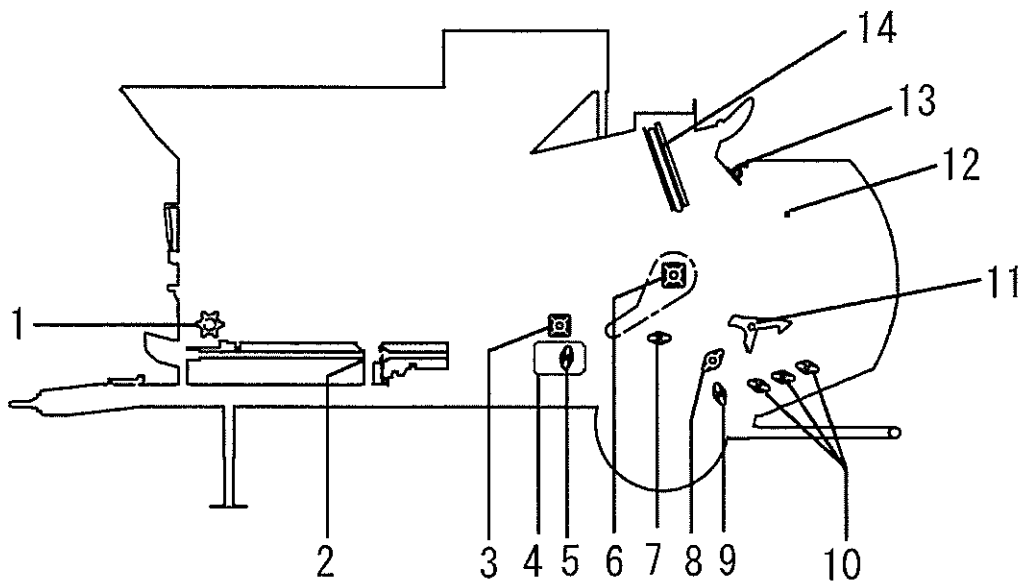
- 1. 床コンベアテンションプロケット
- 2. 床コンベア駆動軸ベアリング
- 3. コンベアテンションスライド部
- 4. コンベアテンションベアリング
- 5. タイトチェン駆動軸ベアリング
- 6. コンベアベアリング
- 7. コンベア駆動軸ベアリング

- 8. タイトチェン折返し部ベアリング
- 9. タイトチェンベアリング (3ヶ所)
- 10. チャンバーロック支点部
- 11. シリンダ支点部
- 12. チャンバー開閉支点部
- 13. タイトチェンテンションスライド部

作業後の手入れと格納について

実施時期は50時間毎です。

(左側)



1. 床コンベアテンションスプロケット
2. メインシャフト中間ベアリング
3. 床コンベア駆動軸ベアリング
4. コンベアテンションスライド部
5. コンベアテンションベアリング
6. タイトチェン駆動軸ベアリング
7. コンベアベアリング

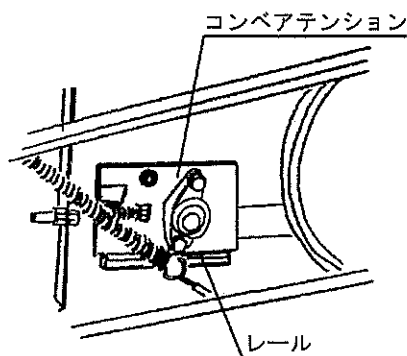
8. コンベア駆動軸ベアリング
9. タイトチェン折返し部ベアリング
10. タイトチェンベアリング (3ヶ所)
11. チャンバーロック支点部
12. シリンダ支点部
13. チャンバー開閉支点部
14. タイトチェンテンションスライド部

作業後の手入れと格納について

1 1. コンベアテンション

スライド部へのグリスアップのしかた
実施時期は50時間毎です。

下図のスライドするレール部にグリスを
塗り込んでください。

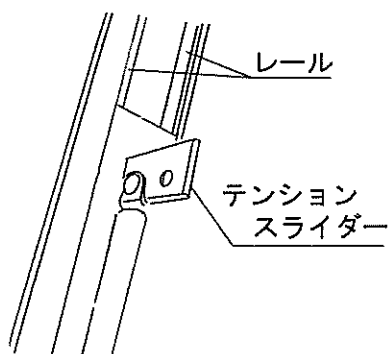


(図は、機体左前から見ています。)

1 2. タイトチェンテンション

スライド部へのグリスアップのしかた
実施時期は50時間毎です。

下図のスライドするレール部にグリスを
塗り込んでください。



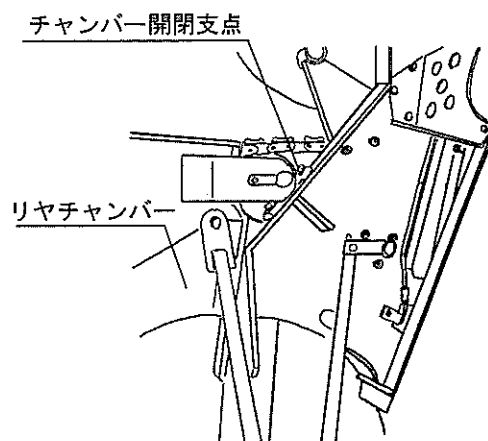
(図は、機体右後から見ています。)

1 3. チャンバー開閉支点への

グリスアップのしかた

実施時期は50時間毎です。

下図のチャンバー開閉支点にグリスアップ
してください。



1 4. 格納のしかた

[重要]

- 機体各部に残留物があると、ネズミの巣になったり、配線部をかじられて、次の年の作業に差し支えますので、きれいに掃除してください。
- 直射日光や雨水のあたらない、風通しのよい屋内に置いてください。
- 床が汚れないように、本機の下に板を敷いてください。
- 外部のサビやすい部分には、防錆油またはエンジンオイル・グリスなどを塗ってください。

1 5. 運転再開のしかた

- 各部の給油・給脂箇所に、十分にオイル・グリスを給油・給脂してください。

作業後の手入れと格納について

16. センサの調整

各センサの調整が不十分だと正常な動作を行うことができません。調整が必要な場合は調整方法に従って再調整してください。

⚠ 警告

トラクタのエンジンをかけたまま調整しますと重大な事故が起こる可能性がありますので、必ず PTO を停止させ、エンジンを止めた状態で行ってください。

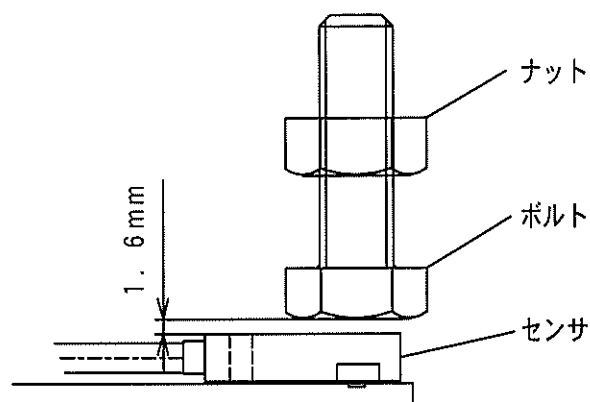
※各センサの位置は「各部の名称とはたらき」P 12 を参照してください。

◆カム1センサ、カム2センサ、 ネットカウントセンサ、 PTO センサ、クラッチ入センサ クラッチ切センサの調整

(調整方法)

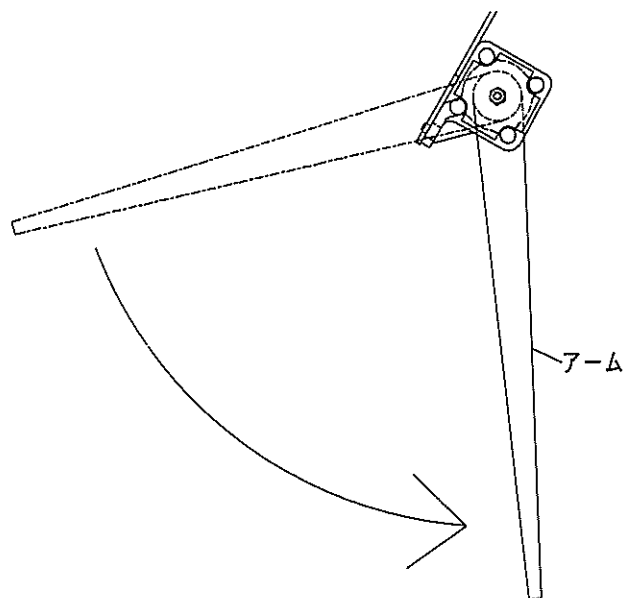
1. 左図に示すように、ナットを緩めてセンサとボルト距離を 1~2 mm に調整してください。
2. 調整後、ナットで固定してください。
3. コントロールボックスの電源が入っているときに、センサが反応していると、センサに付いている LED が点灯します。
センサ上面にボルトが来ても LED が点灯しない場合はボルトを再調整してください。
なお、LED は明るい場所では見えにくいことがあるため、コントロールボックスのセンサチェックをご利用ください。

詳しくは「各部の名称と働き」P 12 および「運転に必要な装置の取扱い」P 24 を参照してください。



◆ホサキ左センサ、ホサキ右センサの確認

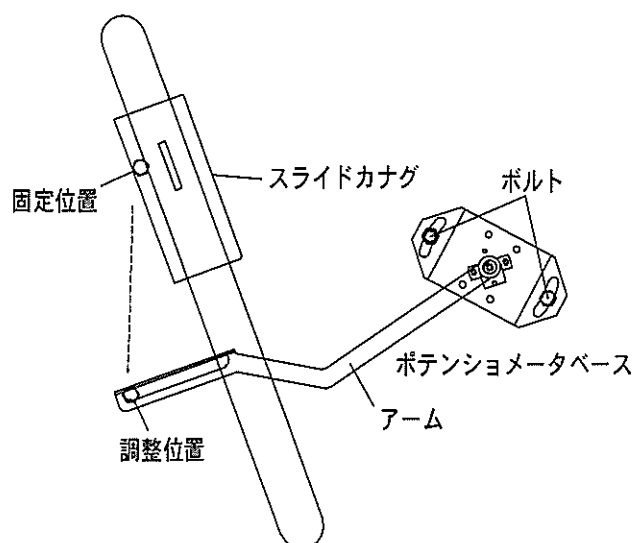
ホサキ左・右センサ先端に材料が引っかかりアームが初期位置まで戻っていないと、コンベアが回転しなくなります。



材料・ネットかす等が引っ掛っている場合は取り除いてください。

作業後の手入れと格納について

◆満了感知ポテンシオメータの調整方法



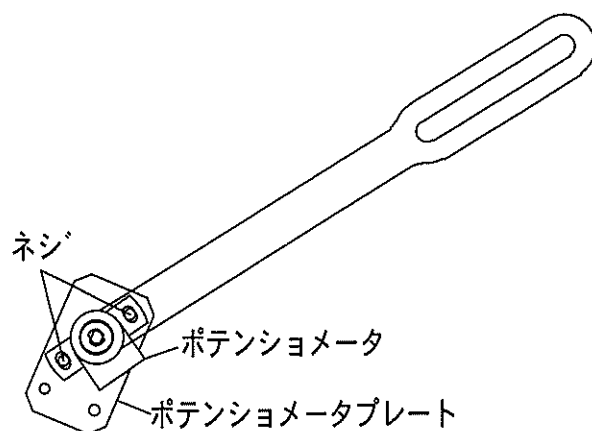
(調整方法)

1. コントロールボックスの電源を入れます。
2. 「モード切替ボタン」を押して「センサチェック」を選択し、「送りボタン」又は「戻りボタン」を押して、「マンリョウカンチ PT」を表示します。
3. アームをスライドカナグに固定しているボルトを外し、調整位置で固定します。
4. ポテンシオメータベースを固定しているボルトを緩めます。
5. コントロールボックスの「マンリョウカンチ PT」の値が 2.5V を表示した位置でポテンシオメータベースを固定します。
6. 調整位置から固定位置にボルトを付け替えて固定します。
7. トラクタのエンジンをかけ、アイドリングで PTO をつなぎます。

8. 「モード切替ボタン」を押して「通常作業」を選択して、チャンバーの開閉を行い初期位置をリセットします。

9. トラクタの PTO を切り、エンジンを停止させます。

◆チャンバポテンシオメータの調整方法



(調整方法)

1. ポテンシオメータを長穴の真ん中でポテンシオメータプレートとネジで固定します。
2. コントロールボックスの電源を入れます。
3. トラクタのエンジンをかけ、アイドリングで PTO をつなぎます。
4. 「全開ランプ」が点灯するまで、「開くボタン」を押し続けてチャンバーを全開にします。
5. 「モード切替ボタン」を押して「センサチェック」を選択し、「送りボタン」又は「戻りボタン」を押して、「チャンバカイ PT」を表示し、その電圧をメモします。
(メモ1)

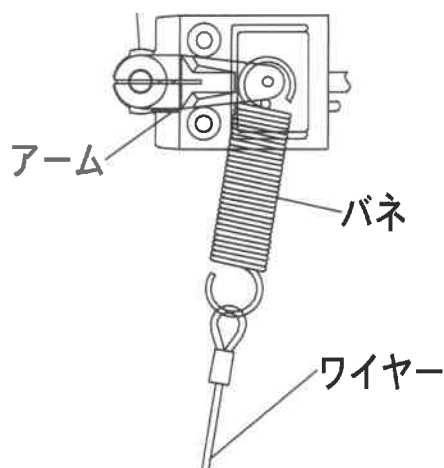
作業後の手入れと格納について

6. 「モード切替ボタン」を押して「通常作業」を選択します。
7. 「全閉ランプ」が点灯するまで、「閉じるボタン」を押し続けチャンバーを全閉にします。
8. 「モード切替ボタン」で「センサチェック」を選択し、「送りボタン」又は「戻りボタン」を押して、「チャンバカイ PT」を表示し、その電圧をメモします。
(メモ2)
9. コントロールボックスの電源を切り、「+ボタン」「-ボタン」を押しながら電源を入れてメーカー設定に入ります。
10. 「送りボタン」又は「戻りボタン」を押して、「ゼンカイデンアツ」を表示し。「+ボタン」又は「-ボタン」で
(メモ1) $-0.10V$
の値を入力してください。
11. 「送りボタン」又は「戻りボタン」を押して、「ゼンハイデンアツ」を表示し。「+ボタン」又は「-ボタン」で
(メモ2) $+0.10V$
の値を入力してください。
12. 「送りボタン」又は「戻りボタン」を押して、「クラッチデンアツ」を表示し。「+ボタン」又は「-ボタン」で
(メモ2) $+0.10V$
の値を入力してください。

13. 「モード切替ボタン」を押して、「通常作業」を選択します。
14. 「チャンバー開ボタン」を押して、チャンバーが全開のときに「全開ランプ」が点灯し、「チャンバー閉ボタン」を押して、チャンバーが全閉のときに「全閉ランプ」が点灯することを確認してください。
15. 確認できましたら、トラクタのPTOを切り、エンジンを停止してください。

◆キッカーセンサの調整

ロック穴付ボルト



(調整方法)

1. ロック穴付ボルトをゆるめます。
2. ワイヤーがたるまず、バネが伸びない位置でアームをロック穴付ボルトで固定してください。

作業後の手入れと格納について

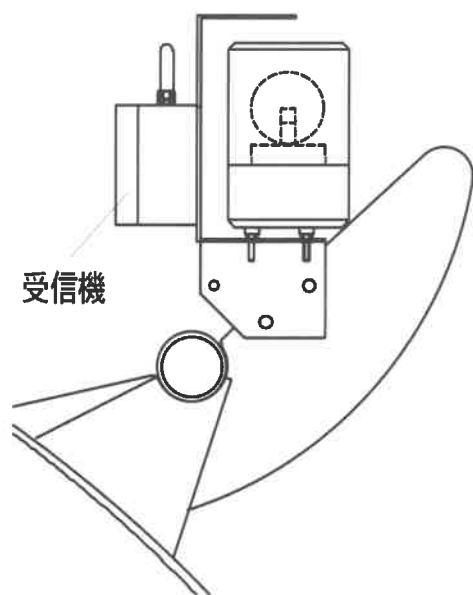
17. 電球の交換

電球が切れた場合は最寄りのホームセンターなどで電球をお買い求めください。

- ・パトライト緑・黄：12V5W
- ・コンビネーションランプ左・右
 - ウインカー左・右：12V21W
 - テールランプ、ブレーキランプ：12V5/23W

18. リモコンの設定方法

以前使っていたリモコンから新しいリモコンへ買い換えた際に、コントロールボックスへ ID 登録をする必要があります。



・ID の登録手順

1. コントロールボックスの電源を入れます。
2. 受信機のカバーを外します。
3. 受信機内部のスイッチを押したまま受信機のコネクターを抜き差しし、一度受信機の電源を入れ直します。
4. LED が 2 回光りますのでその後、受信機内部のスイッチを離すと、ID 登録モードに入ります。

5. リモコンの「供給ボタン」を押すと LED が 2 回光り ID が登録されます。

6. ID の登録が終了したら、コントロールボックスの電源を一旦切り、再度電源を ON すると通常どおり使用することができるようになります。

19. タイトチェンを交換後

タイトチェンを交換するとポテンシオメータの初期位置がずれ、満了前に満了感知をしてしまい、ネット巻付けができなくなります。

タイトチェンを交換後、設定径を 90cm に変更してバールを 1 個作ってください。

(P 23 参照)

なお、1 個目のバールは 90cm より小さくなります。

自動でネット巻付け・放出した後、ポテンシオメータの初期位置を更新しますので 2 個目以降、設定径は変更できます。

各部の点検・整備

1. 定期点検一覧表

◇点検、○：補給、●交換、□：調整（掃除）、△：給油脂								
点検整備項目		毎日	50時間 ごと	100 時間 ごと	200 時間 ごと	300 時間 ごと	600 時間 ごと	参照 ページ
総体部	部品の脱落・破損の点検	◇						
	各部のボルト・ナットのゆるみ点検・増締	◇						
	清掃	□						
潤滑油	直交ミッションオイルの交換		● (1回目)			●		53
	タイトチェン給油オイルの点検・補充	△						40
油圧系統	油圧パッケージオイルの点検・補給	●必要時						53
	油圧ホースの亀裂・破損有無点検※	◇						
注油	各部への注油		△					42
グリス アップ	各部へのグリスアップ	◇			□			43 ・ 44
電装関係	コントロールボックスの作動	◇						
	配線の断線・ショート・ターミナルのゆるみ 点検・増締※	◇						
	ヒューズの点検・交換	●必要時						53 ・ 54
ネット装置	ネット 装置のブレーキシュー カラー×3個	◇					●	29
駆動ベルト 関係	ロールベア駆動ベルトの点検・調整		◇		□			54
チェン関係	油圧パッケージ駆動チェンの点検・調節		◇	□				55
	タイトチェン駆動チェンの点検・調節	◇		□			●	56
	アジテータ・床コンベア駆動 チェンの点検・調節		◇	□				57
	コンベア駆動チェン点検・調節		◇	□				57

● の箇所は、保安上重要な箇所です。

各部の点検・整備

2. 規定値一覧表

点検・調節箇所	規定量	内容	参照ページ
油圧パッケージ駆動チェーン	約 3 mm	指で押したときのたわみ量	5 5
ロールベア駆動ベルト	2 5 0 ~ 2 5 5 mm	テンションバネフック間の長さ (クラッチ「入」時)	5 4
タイトチェーン駆動チェーン	5 0 ~ 5 2 mm	テンションバネのバネ長さ	5 6
アジテータ・床コンベア駆動チェーン	1 0 ~ 1 5 mm	指で押したときのたわみ量	5 7
コンベア駆動チェーン	5 0 ~ 5 2 mm	テンションバネのバネ長さ	5 7
床コンベアチェーンテンション	約 1 0 0 mm	チェーンを持ち上げたときのたわみ量	5 2
コンベアテンション	1 0 0 mm	コンベアの持ち上がり量	5 8

3. オイル・グリス一覧表

	純正	一般販売店の相当オイル		
		新日本石油 (ENEOS)	コスモ石油	ジャパンエナジー (JOMO)
グリス (マルチパーパスタイプ)	—	エピノック グリスAP2	コスモグリス ダイナマックス EP2	リゾニック グリスEP2
直交ミッションオイル	ミッションオイル90番	—		
油圧パッケージオイル	シェルテラスオイル 68	〔ISO : VG68 耐摩耗性作動油相当品〕		

4. 給油一覧表

項目	給油量	種類	交換時期	参照 ページ
油圧パッケージオイル	8L	シェルテラスオイル 68 〔ISO:VG68 耐摩耗性作動 油相当品〕	不足時補充	53
ミッションオイル (ハーベスタ直交ミッション)	0. 8L	ミッションオイル90番	1回目: 50時間または1シーズン 2回目: 以降300時間ごと、または 1シーズンごとのどちらか早い方	53

【重要】

定期点検を実施するとともに、オイルの交換は純正（指定）オイルをご使用ください。

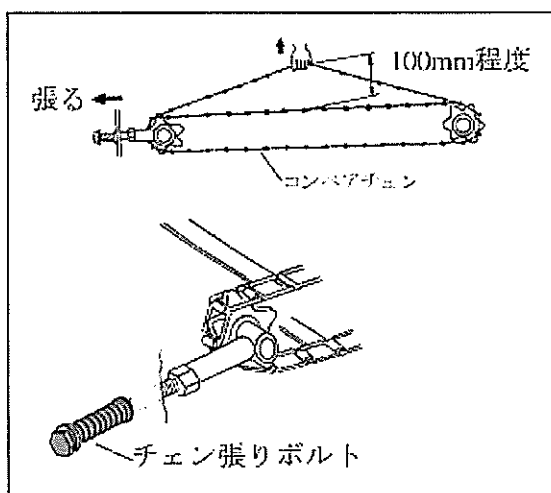
各部の点検・整備

⚠ 警告

- 各部の調整をするときは、PTO を切りエンジンを停止させて、回転部が完全に止まってから行ってください。
- 取り外したカバー類は、必ず取付けてください。

5. コンベアチェンの調節

床送りのコンベアチェンは、長期間使用すると伸びが生じます。時々、張り具合が規定通りかどうかチェックし、伸びている場合は機体の前方にあるコンベアチェン張り用のボルトで調節してください。



注意

使用初期のころはスプロケットとコンベアチェンのなじみが悪く、いきなり使用するとコンベアチェンが切れる場合がありますので5～10分ならし運転をし、一度コンベアチェンの張りを点検してから使用してください。

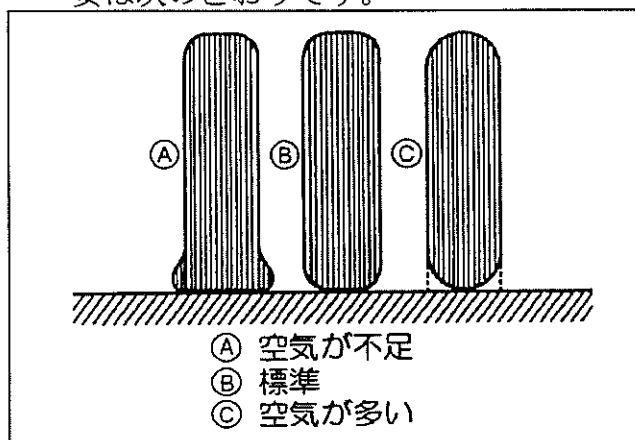
6. タイヤの空気圧調節及び磨耗・損傷

- ◆作業前にはタイヤの空気圧を確認してください

⚠ 警告

- タイヤの空気圧は取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入れ過ぎは、タイヤ破損の恐れがあり死傷事故を引き起こす原因になります。
- タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。
タイヤ破損の恐れがあります。
- タイヤ・チューブ・ホイールなどに関する交換・修理などは、十分な整備施設をもち、特別教育を受けた人がいるタイヤショップ等の専門店で依頼してください。

外観からタイヤの空気圧を判断する目安は次のとおりです。



◆タイヤのサイズと規定空気圧

タイヤサイズ（チューブレスタイヤ）
11L-15 6プライ

空気圧

常圧タイヤ内圧	200 kpa (2.0 kgf/cm ²)
リム組み時内圧	350 kpa (3.5 kgf/cm ²)

各部の点検・整備

7. オイルの点検・補給・交換のしかた

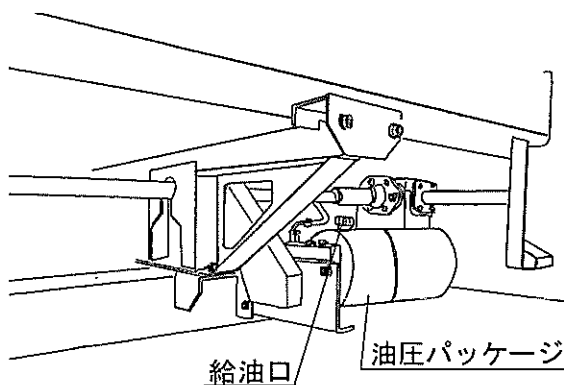
[重要]

- 地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。
- オイルを補給・交換するときは、電装部品にかからないようにしてください。故障の原因になるおそれがあります。

①油圧パッケージ

給油口のキャップを外し、キャップについているゲージで油量を確認し、不足している場合は、継ぎ足してください。

推奨オイル
シェルテラスオイル 68
〔ISO:VG68 耐摩耗性作動油相当品〕



(図は本機左側からみています。)

②直交ミッション

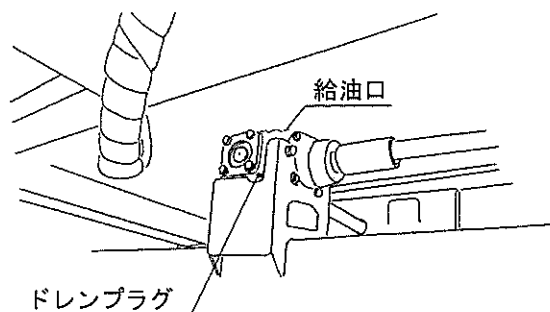
推奨オイル	交換時期	規定量
ミッションオイル 90番	300時間ごと	0.8L

〈補給のしかた〉

給油口を外して、補給してください。

〈交換のしかた〉

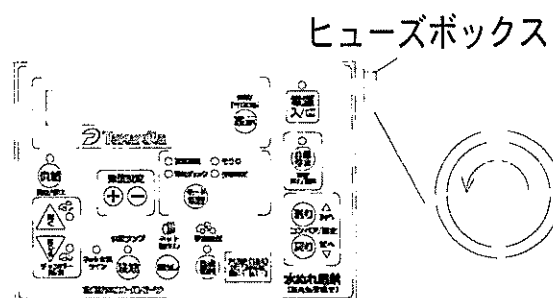
ドレンプラグを取り外してください。
このとき、オイルが周辺にかからないように、厚紙などを折り曲げて、とい状にしたものを使用してオイルを受けてください。



(図は、本機右側からみています。)

8. ヒューズの点検・交換のしかた

- コントロールボックスの右側面にヒューズボックスがあります。電源が入らないときは管ヒューズ 15A を確認・交換してください。



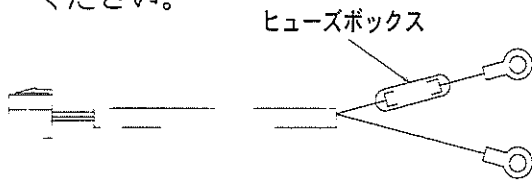
ヒューズボックスの上を押しながら、矢印方向に回すとヒューズボックスのキャップを外すことができます。

また、装着時はヒューズボックスの上を押しながら、矢印方向とは逆に回すと装着できます。

※安全作業のために電源コードをコネクタから抜いてから、ヒューズの確認・交換をしてください。

各部の点検・整備

- 電源コードにもヒューズボックスがあります。電源が入らないときは管ヒューズ 30A を確認・交換してください。

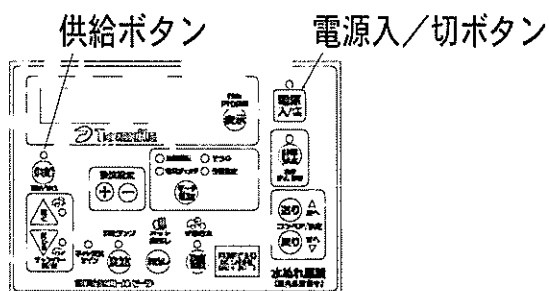


※安全作業のため、バッテリーのマイナスから端子を外してヒューズの確認・交換をしてください。

9. ロールベアラ駆動ベルトの調節のしかた 使用ベルト スーパーゴールド LB-87 (3本)

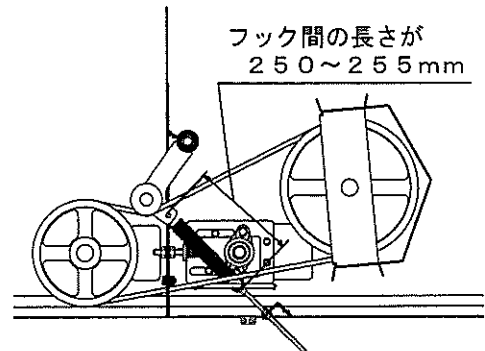
〈点検のしかた〉

1. トラクタのエンジンをかけ、アイドリングのままPTOをつないでください。
2. コントロールボックスの「供給ボタン」を押し、タイトチェーンが回転している事を確認してください。



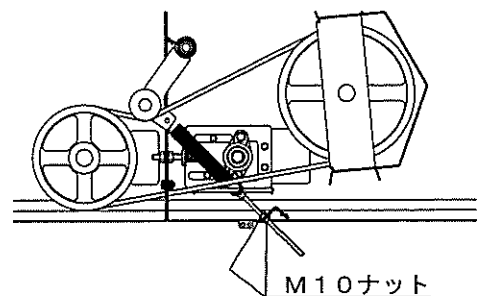
3. タイトチェーンの回転が確認できたら、コントロールボックスの「電源入/切ボタン」を押し、コントロールボックスの電源を切ってください。
4. トラクタのPTOを切り、エンジンを止めてください。

5. テンションを張った状態（クラッチ「入」の状態）で、バネフック間の長さを測り、250～255mmであるか確認してください。



〈調節のしかた〉

M10ナットを緩めバネのフック間長さが上図の250～255mmになるように調節してください。

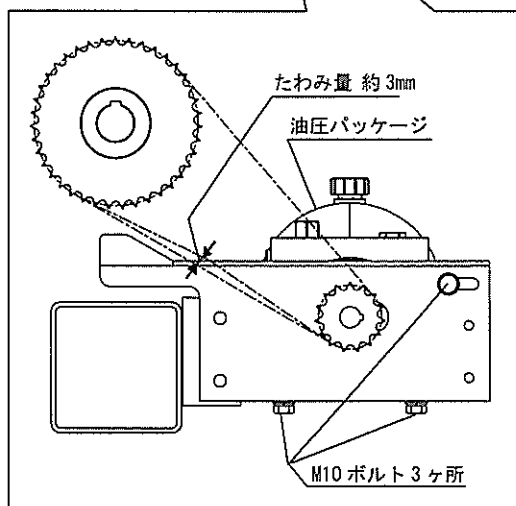
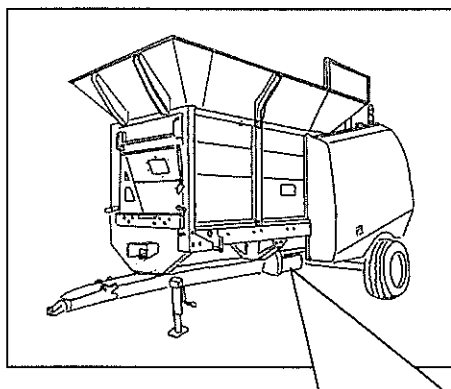


各部の点検・整備

10. 各部のチェーン調整

①油圧パッケージ駆動チェーン

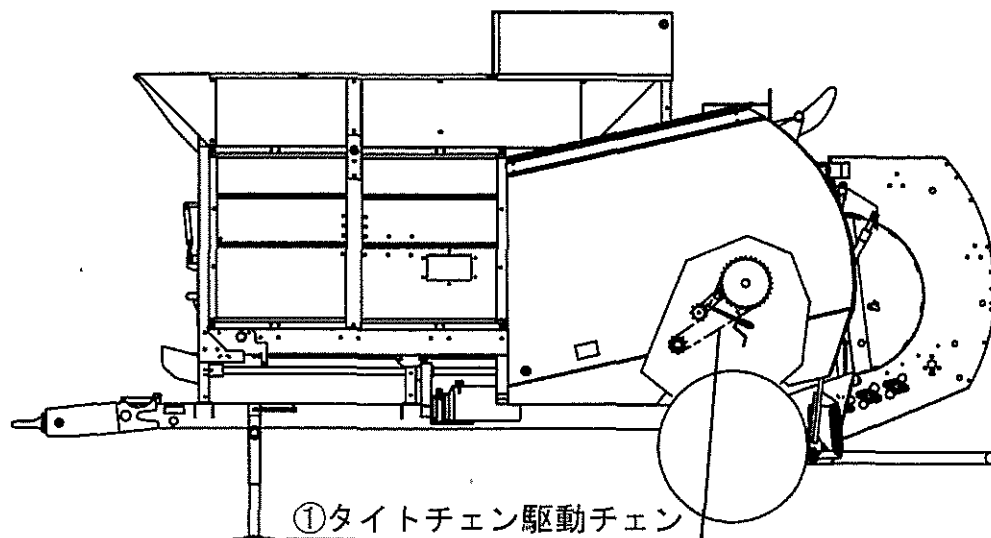
1. チェーンカバーを取り外してください。
2. 指で押したときのたわみ量が約3mmになるように、パッケージ締め付けボルト（M10）を3ヶ所ゆるめ、パッケージを移動させてチェーンを張ってください



3. 調節ができましたら、必ずカバーを元どおりに組付けてください。

各部の点検・整備

〈ロールベアラ左側



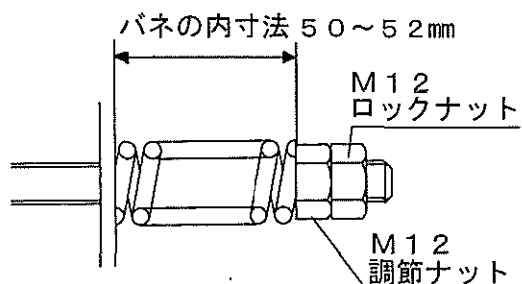
②タイトチェン駆動チェン

〈点検のしかた〉

サイドカバーを開け、テンションバネの内寸法を測り、50～52mmであるか確認してください。

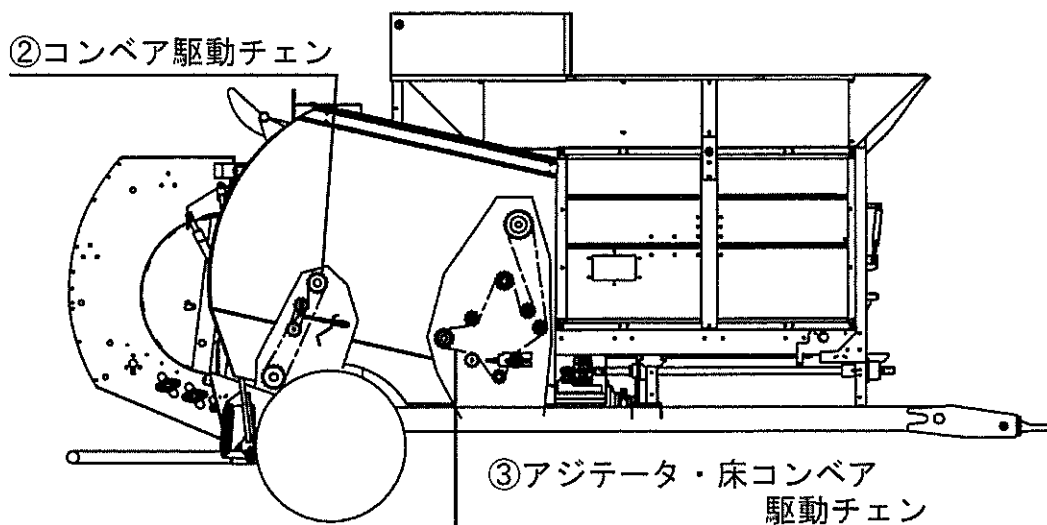
〈調節のしかた〉

M12のロックナットをゆるめ、
M12調節ナットで調節してください。



各部の点検・整備

〈ロールベアラ右側〉



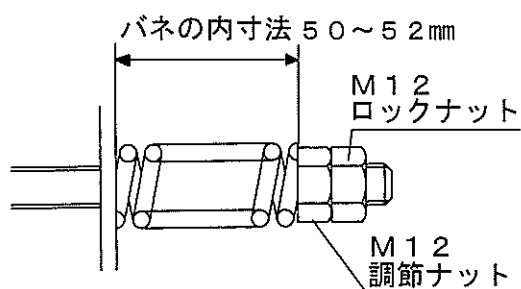
③コンベア駆動チェン

〈点検のしかた〉

サイドカバーを開け、テンションバネの内寸法を測り、50～52mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉

M12のロックナットをゆるめ、M12調節ナットで調節してください。



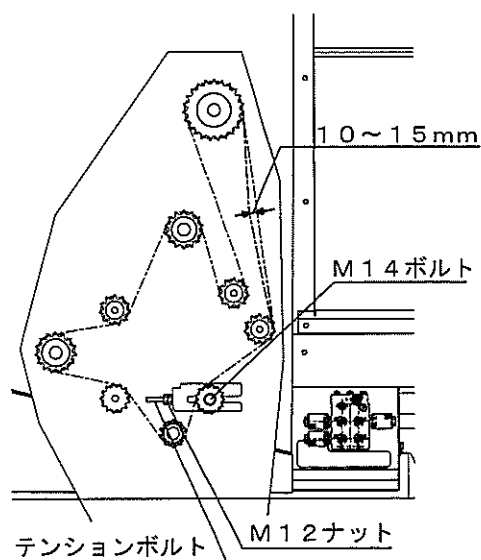
④アジテータ・床コンベア駆動チェン

〈点検のしかた〉

サイドカバーを開け、指でチェンを押し、たわみが10～15mmであるか確認してください

〈調節のしかた〉

M14ボルト及びM12ナットをゆるめ、テンションボルトで調節してください。

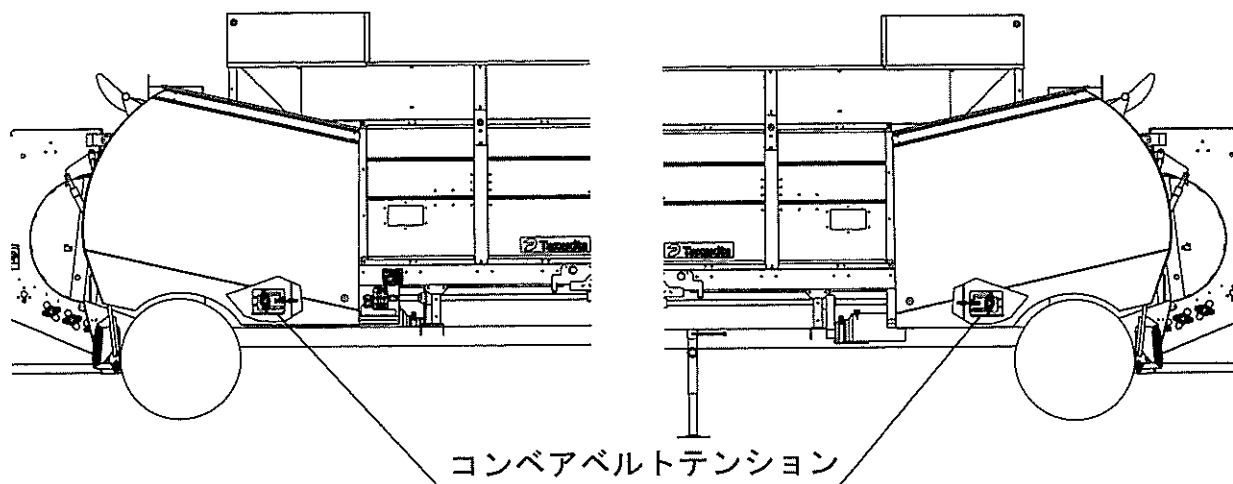


各部の点検・整備

11. コンベアベルトの調節のしかた

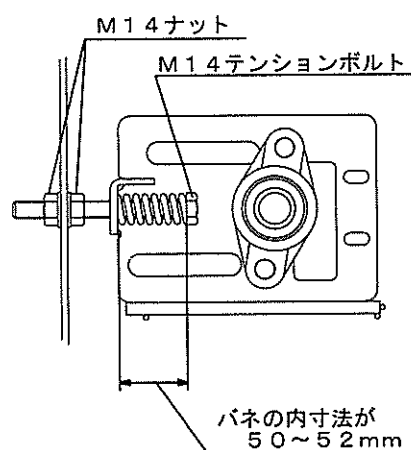
〈点検のしかた〉

サイドカバーを開けて、左右のバネの内寸法を測り、50～52mmであるか確認してください。



〈調節のしかた〉

M14のナットをゆるめ、
M14テンションボルトで調節してください。



(図は、右側のコンベアテンション)



警告

- 機械の調子が悪いときは、必ず PTO を切りトラクタのエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてから診断してください。守らないと、回転物にはさまれて傷害事故の原因になります。

状況	点検箇所	処置	参照ページ
ロールペーラが動かない。	ロールペーラ駆動Vベルトがたるんだり切れたりしていませんか。	Vベルトのテンションの調整または、交換してください。	5 4
	ロールペーラクラッチが「切」になっていませんか。	コントロールボックスの「供給」を押してください。	1 3
	タイトチェーン駆動スプロケットのシェアボルトが切断されていませんか。	シェアボルトを交換してください。	2 1
コントロールボックスの供給開始できない。	コントロールボックスの電源が「入」になっていませんか。	電源をいれてください。	
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。 (管ヒューズ 15A) (管ヒューズ 30A)	5 3・5 4
	チャンバー「全閉」のランプが着いていますか。	チャンバーを閉じて「全閉」のランプを点灯させてください。	1 3
	トラクタの PTO が切れていませんか。	トラクタの PTO をつないでください。	
コントロールボックスの供給開始を押しても、床コンベアが動かない。	トラクタの PTO が切れていませんか。	トラクタの PTO をつないでください。	
	材料又はネットが穂先センサーに引っ掛かっていませんか。	穂先センサーに引っ掛っているものを取り除いてください。	4 6
リヤチャンバーが閉まらない。	シリンダーストッパーが効いていませんか。	シリンダーストッパーを解除してください。	1 9

コントロールボックスのエラー表示

以下の動作不良表示中は非常停止中になっています。非常停止を解除するにはコントロールボックスの「非常停止ボタン」を長押ししてください。

※電装関係のトラブルで多いのは

- ・コネクタが確実に接続されていない。
- ・バッテリーが充電されていない。

です。まずは上記2点を確認しましょう。 P18参照

No.	液晶表示	原因・対応方法	参照ページ
1	PT0ガカイトンシテイマセン シヤボルトヲカクニン	シヤボルトが切れているもしくはPT0が回転していません。PT0センサの再調整してください。	21・46
2	ロールガコロガリマセン セッテイヲヘンコウシテクダサイ	ロールがキッカーの上に乗ったままになっています。ロールを取り除いてください。※チャンバー内に入る際は必ずシリンダーロックをしてください。	
3	ロールガオチテイマセン セッテイヲヘンコウシテクダサイ	キッカーセンサが反応していない。キッカーセンサ先端のバネが外れていないか確認してください。	48
4	チャンバーガヒラキマセン オイルリョウヲカクニン	チャンバーが開きません。油圧オイル量を確認してください。	53
5	クラッチガキレマセン クラッチヲカクニンシテクダサイ	クラッチモータのギヤにゴミが詰まっていないか確認してください。クラッチ入・切センサが反応していません。クラッチ入・切センサを再調整してください。	12・46
6	クラッチガハイリマセン クラッチヲカクニンシテクダサイ		
7	カムガカイトンデキマセン カムヲカクニンシテクダサイ	カムのギヤにゴミが詰まっていないか確認してください。	12・46
		カム1, 2センサが反応していない。カム1, 2センサを再調整してください。	
8	ネットヲコウカンシ、ネットクリダシ スイッチヲオシテクダサイ	ネットブレーキ力が強く、ネットが入っていかない。ブレーキを低位置にしてください。	29
		ネットカウントセンサが反応していない。ネットカウントセンサを再調整してください。	12・46

主要消耗品

主要消耗品

区分	No.	コード	名称	個数	備考
ロールベアラ関係	1	03610-5120-870	LB-87 スーパーゴールド	3	ロールベアラ駆動
	2	03621-0400-730	チェン#40×73	1	油圧パッケージ駆動
	3	06321-1400-000	#40 継ぎ手リンク	1	油圧パッケージ駆動 チェン用継ぎ手
	4	03621-0080-590	チェン#80×59	1	タイトチェン駆動
	5	03621-2800-000	#80 継ぎ手リンク	1	タイトチェン駆動チ ェン継ぎ手
	6	03621-0600-750	チェン#60×75	1	コンベア駆動
	7	03621-1600-000	#60 継ぎ手リンク		コンベア駆動チェン 継ぎ手
	8	03621-0601-530	チェン#60×153		アジテータ・床コン ベア駆動
	9	03610-0010-750	LA-75 標準	3	ネット装置駆動
	10	03621-1600-000	#60 継ぎ手リンク		アジテータ・床コン ベア駆動チェン 継ぎ手
	11	40120-3740-000	タイトチェン	2	
	12	37117-3290-000	継ぎ手Assy	2	タイトチェン 継ぎ手
	13	39101-3341-000	タイトバー	78	
	14	39101-3350-000	タイトバー（キー付）	7	
	15	01211-2100-250	ボルト10×25 （11T、細目、黒染め）	170	タイトバー固定 ボルト
	16	02421-1000-100	高力座金 10	170	タイトバー固定 バネ座金
	17	02160-0101-800	タイトバーナット 10	170	タイトバー固定 ナット
	18	33107-3640-000	テンションシリンダ	2	タイトチェン テンション
コンベア関係	19	32103-1632-000	デタッチャブルチェン	110	床コンベア
	20	36120-6450-000	コンベアバー	1	床コンベアバー
	21	40120-5470-000	コンベアバー（キー付）	1	床コンベアバー
	22	40120-6420-000	コンベアベルト	1	コンベア
シェアボルト関係	23	01358-0080-40C	シェアボルトアッシ（10セット入） M8×40（8T・半ネジ） M8ナイロンナット		タイトチェン駆動ス プロケット部

主要消耗品

区分	No.	コード	名称	個数	備考
ネット装置	24	33101-6993-000	ブレーキシュー	1	ブレーキ
	25	36120-6983-001	ガイドカラー	2	ドラム
電装	26	00900-0100-150	管ヒューズ 15A	1	コントロール ボックス
	27	00900-0100-300	管ヒューズ 30A	1	電源

付 表

1. 主要諸元

型 式	MR-820	
名 称	細断型ロールベアラ	
装 着 方 法	ドローバ牽引方式	
駆 動 方 法	PTO駆動 (回転速度 540min ⁻¹ (rpm))	
適 応 ト ラ ク タ	定置作業・伴走作業 22.1kW (30PS) 以上 ※1	
機 体 寸 法	全 長	5,110mm
	全 幅	1,910mm
	全 高	2,600mm (補助ホッパー取付け時) ※2 2,280mm (補助ホッパー取外し時)
質 量	1,870kg (補助ホッパー含む)	
ロ ー ル 寸 法	約φ85～φ90cm×85cm	
ロ ー ル 重 量	約300～450kg	
結 束 装 置	ネット巻 (1mまたは1.2m幅)	
チャンバー開閉	全自動運転 (内蔵油圧パッケージによる油圧)	
前コンベア駆動		
タイヤサイズ	11L-15 6プライ	

この主要諸元は、改良などにより、予告なく変更することがあります。

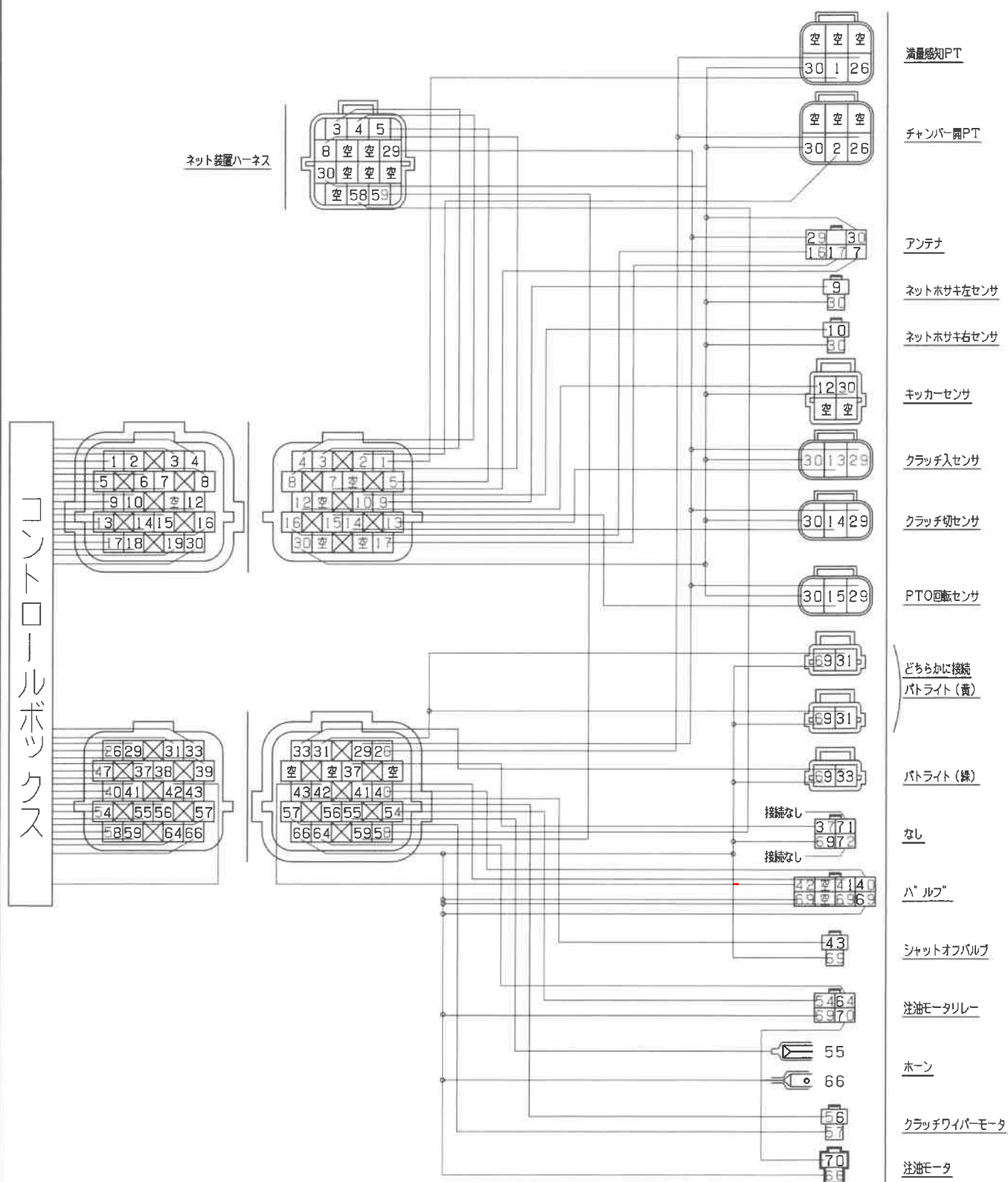
※1 弊社2畦コーンハーベスターMC2460でのワンマン作業時55.8kW(80PS)以上

※2 補助ホッパーは、ワンマン作業・伴走作業時必要になります。(定置作業時は不要です)

付 表

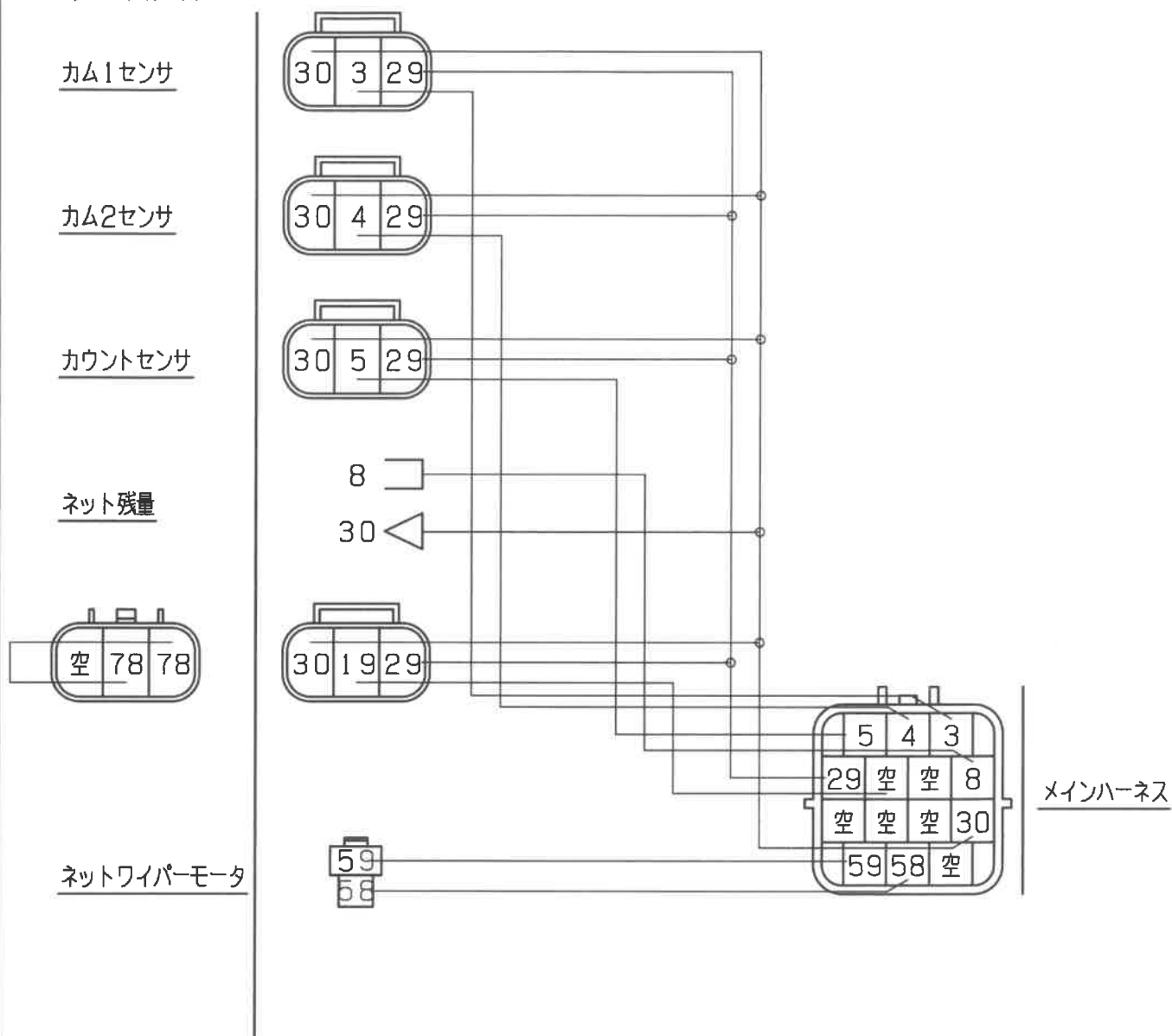
2. 配線図

・ 本体部

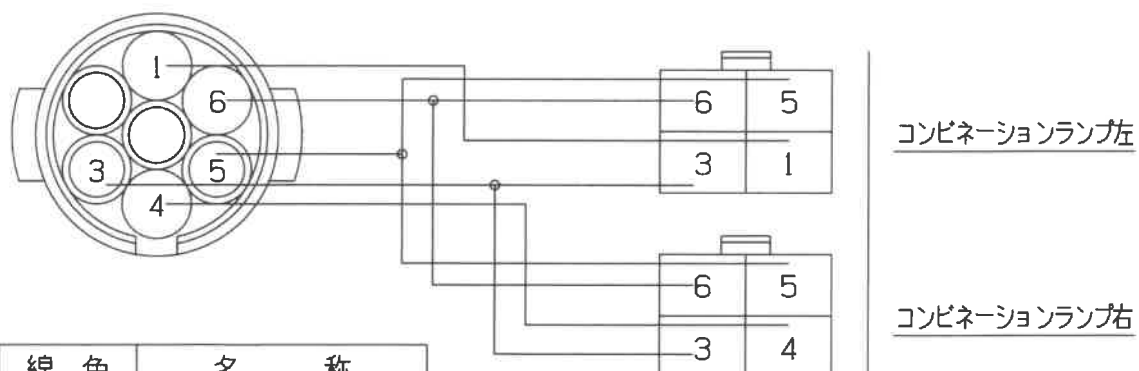


付 表

・ ネット装置部



・ コンビネーションランプ部



No	線 色	名 称
1	Y	方向指示灯 (左)
3	B	アース
4	G	方向指示灯 (右)
5	Br	尾灯・番号灯・車幅灯
6	R	制御灯